

キャストィ 21 イベントゾーン

文化・コンベンションエリア基本計画

平成 27 年（2015 年）3 月

姫 路 市

はじめに

キャストィ 21 イベントゾーンは、JR 姫路駅の東約 700mに位置し、姫路市の都心部に残された最後の大規模空間です。姫路市が、更なる発展に向けて新たな展開に踏み出すためには、このイベントゾーンを、有効に活用していくことが求められています。

本市では、平成 18 年に、都心部のまちづくりの指針となる「姫路市都心部まちづくり構想」及び「キャストィ 21 整備プログラム」を策定し、これらの構想等に基づいて、姫路駅周辺の整備を進めています。北駅前広場を含むエントランスゾーンは、平成 27 年 4 月に完成予定であり、その東に隣接するコアゾーンについても事業予定者が決定し、順次工事に着手する予定としています。イベントゾーンについても、このタイミングを逃すことなく整備を行うことが、都心部の回遊性を向上させ、中心市街地の一層の活性化に資するとともに、本市の「播磨の連携中枢都市」としての魅力を内外に発信し、播磨圏域全体のさらなる発展に寄与するものと考えています。

イベントゾーンは、都心部まちづくり構想で、「交流と創造のうるおいひろば」と位置づけられています。このたび、この構想の考え方、位置付けに基づき、イベントゾーンのうち、「文化・コンベンションエリア」について、整備に向けた基本計画を策定しました。

本計画では、「姫路市イベントゾーン基本計画検討懇話会」における貴重な意見交換をもとに、イベントゾーンの整備コンセプトを「知と文化・産業の交流拠点」と定め、文化・コンベンションエリアに文化・交流施設とコンベンション・展示施設の 2 つの施設の整備を計画しています。これらの施設は、播磨の連携中枢都市として、文化芸術活動の振興と国際会議観光都市を目指す本市の都市戦略上、不可欠な施設であり、エリア全体の付加価値を高めていくためにも、都心部に集約できるメリットを最大限に活かせるよう整備していくことが必要であると考えています。

また、イベントゾーンで目指す都市戦略を実現するためには、施設の整備と並び、どのように活用していくのかという点が、最も重要となります。今後、市民や関係の皆さまのご協力、ご助言を得ながら、市の施策展開の取組みを強化するとともに、最適な運営、管理が行われるような仕組みを検討していきます。

最後に、本計画の策定に際しまして、懇話会の委員をはじめ、数多くの市民の方々から貴重なご意見をお寄せいただきましたことに対し、心よりお礼申し上げます。今後、基本設計、実施設計と建設に向けた行程を進めますが、皆さまのご理解とご協力をいただきながら、播磨の連携中枢都市である本市にふさわしい、また、市民が誇りに思う施設となるよう努めてまいります。

平成 27 年（2015 年）3 月

目 次

1	イベントゾーン整備の基本的考え方	P. 2
	(1) 我が国の社会経済動向、まちづくりの潮流	
	(2) 姫路市の都市づくりを進める方策	
	(3) イベントゾーンの概要	
	(4) 姫路市における MICE 推進及び文化・芸術の振興の考え方とイベントゾーン	
	(5) 整備コンセプト	
	(6) 導入機能	
	(7) エリアの設定及び段階的整備	
2	文化・コンベンションエリアの整備基本方針	P. 15
	(1) 導入機能	
	(2) 周辺施設との機能連携	
3	施設の構成と規模の設定	P. 17
	(1) 施設構成	
	(2) 施設規模	
4	施設配置計画	P. 27
	(1) 施設配置計画	
	(2) 交通動線計画	
	(3) 空間形成方針	
	(4) 施設配置イメージ（試案）	
5	概算事業費（推計）	P. 30
	(1) 概算建設工事費	
	(2) 概算運営事業費	
6	管理運営の基本方針	P. 38
7	スケジュール	P. 40
8	参考	P. 41
	(1) 望ましい施設シート及びシーズ・ニーズに関する参考資料	
	(2) 策定関連資料	

1 イベントゾーン整備の基本的考え方

(1) 我が国の社会経済動向、まちづくりの潮流

イベントゾーン整備のための基本計画の策定に当たって、これからのまちづくりを考える上で注視、考慮すべき社会経済動向、まちづくりの潮流を整理する。

① 人口減少、世界でも類を見ない少子高齢化の進展

我が国は既に人口減少時代に移行しており、今後、これまで世界でも経験したことのない急激な少子高齢社会を迎えようとしている。このような状況下においては、これまでのような人口増加を背景とした経済成長を期待することはできず、新たな活路を見出し、都市やまちの活力を維持、増強していくことが求められている。

② 新たな成長戦略、我が国の強みを活かした成長分野への重点的投資

人口減少、少子高齢化等で内需での成長が見込めない状況下においては、これまでのストック等により我が国が強みを有する成長分野への重点的投資を行い、主に海外との関係を強化することによって成長を図ることが必要となっている。まちづくりに関連する分野では、環境、医療、産業技術、金融、観光といった産業の強化及びこれに関連する人材育成が急務となっており、国はこれを支援するため国際戦略総合特区制度の創設などを推進している。

③ 我が国の成長を支える都市の役割の増大

このような新たな成長を果たしていく舞台として、様々なサービス機能やインフラのストックを有する都市の役割は今後とも増大していくこととなる。これからのまちづくりでは、平成18年施行の「改正まちづくり三法」の背景にある都心部等への「集中と選択」や、平成27年度からの制度の本格実施に向けて、播磨圏域において取組みを進めている「連携中枢都市」制度（国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に伴い「地方中枢拠点都市」制度より改称）の考え方に留意しつつ、各都市が有する「強み」をさらに強化するとともに、まちの主役である「人」にとって住みやすく、魅力あるまちづくりを目指していくことが重要となっている。

④ 「交流」を核としたまちづくり

都市の成長を推進する上で、「交流」の促進に大きな期待が寄せられている。近年ではMICEの概念の下で、会議やイベントだけではなく観光も含めた総合的な取り組みが世界的な潮流になっている。この背景としては、MICEによる経済波及効果が多岐の産業に波及することがあげられるが、特に我が国では、内需の増大が期待できない中で、MICEによる海外からの交流人口の受け入れは経済成長に大きな役割を果たすことになる。そのため、国レベルでも、平成20年の観光庁の設立、「観光立国」政策や「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の推進、国際会議観光都市の指定、「2010年Japan MICE Year」の実施など、活発な動きを見せている。

【参考】MICE について

MICEとは

企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

Meeting

企業等のミーティング等

例：海外投資家向け金融セミナー
グループ企業の役員会議等

Incentive (Travel)

企業が従業員やその代理店等の表彰や研修などの目的で実施する旅行
企業報奨・研修旅行とも呼ばれる。
例：営業成績の優秀者に対して本社役員が行うレセプション、表彰式等

Convention

国際団体、学会、協会が主催する
総会、学術会議等

例：APEC、世界建築会議
生物多様性条約第 10 回締結国会議
(COP10)等

Event/Exhibition

文化・スポーツイベント、展示会・見本市

例：東京国際映画祭、世界陸上選手権大会
アジアバスケットボールリーグ
東京モーターショー、国際宝飾展等

- 平成 6 年 6 月
・国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際化観光の進行に関する法律 施行
- 平成 19 年 6 月
・国交省「観光立国推進基本計画」策定
- 平成 21 年 7 月
・観光庁「MICE 推進アクションプラン」策定
- 平成 22 年 11 月
・「MICE 国際競争力強化委員会」設置
- 平成 25 年 6 月
・閣議決定された「日本再興戦略」において、「2030 年にはアジアNo.1 の国際会議開催国としての不動の地位を築く」という目標が掲げられ、多くの人や優れた知見、投資を日本に呼び込む重要なツールとして MICE を位置付け
- ・MICE 国際競争力強化委員会「我が国の MICE 国際競争力強化に向けて」とりまとめ
(出典：観光庁ホームページ)
- 平成 20 年 10 月
・国交省の外局として「観光庁」設立
- 平成 22 年
・JAPAN MICE Year

なぜMICEを推進するのか

■ビジネス・イノベーションの機会の創造

MICE 開催を通じて世界から企業や学会の主要メンバーが我が国に集うことは、我が国の関係者と海外の関係者のネットワークを構築し、新しいビジネスやイノベーションの機会を呼び込むことにつながる。

■地域への経済効果

MICE 開催を通じた主催者、参加者、出展者等の消費支出や関連の事業支出は、MICE 開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出す。MICE は会議開催、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動の裾野が広く、また滞在期間が比較的長いと言われており、一般的な観光客以上に周辺地域への経済効果を生み出すことが期待される。

■国・都市の競争力向上

国際会議等の MICE 開催を通じた国際・国内相互の人や情報の流通、ネットワークの構築、集客力などはビジネスや研究環境の向上につながり、都市の競争力、ひいては、国の競争力向上につながる。海外の多くの国・都市が、国・都市の経済戦略の中で、その達成手段の一つとして MICE を位置づけ、戦略分野/成長分野における産業振興、イノベーション創出のためのツールとして国際会議や見本市を活用しており、我が国においても、MICE を国・都市の競争力向上のツールとして認識し、活用することが重要である。

(出典：観光庁ホームページ)

姫路市におけるMICEの取組み

本市では、平成 17 年 3 月に国際会議観光都市に認定されるとともに、平成 18 年 4 月には社団法人姫路観光コンベンションビューローを発足させるなど、国際観光・コンベンション都市の実現を目指して種々の施策を展開している。

一方、国等では交流と観光をセットにした都市・地域成長戦略である MICE の推進が図られている。このような中、イベントゾーンにおける施設の検討にあたっては、将来の施策展開を見据え、都市の成長戦略としての MICE の考え方を重視する必要がある。

⑤ 文化・芸術の振興による生活の質（QOL）の向上

生活に対する人々の価値観が大きく変化し、個人のライフスタイルや精神的な豊かさが重視されている。こうした中、人々の文化・芸術に対する関心も高まり、質的にも多様で幅広いニーズが出てきていることから、そうした要望に応え、真の意味での精神的な豊かさが、人々の生活の中に定着する必要がある。

また、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（以下「劇場法」という。）の施行により、自主的かつ主体的に、それぞれの地域の特性に応じた施策の策定と劇場、音楽堂等の積極的な活用が求められている。

さらに、幅広い世代の人々が充実した余暇時間を過ごせるよう、市民が自主的な文化活動に参加できる環境づくりが一層重要となっており、文化創造の担い手である市民や芸術文化団体などによる主体的な活動や文化イベントを支援する必要がある。

【参考】「劇場法」について

劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

1. 趣旨

我が国の劇場や音楽堂、文化会館、文化ホール等（以下「劇場、音楽堂等」という。）に係る現状や課題を踏まえ、文化芸術振興基本法の基本理念にのっとり、劇場、音楽堂等の活性化を図ることにより、我が国の実演芸術の水準の向上等を通じて実演芸術の振興を図り、もって心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現等に寄与する。

<現状>

- ・我が国における劇場、音楽堂等としての機能を有している施設の多くは、文化会館や文化ホールといった文化施設であり、また、多目的に利用される場合が多い。
- ・これらの文化施設における文化芸術活動は、多くの場合、貸館公演が中心となっている。

<主な課題>

- ・文化施設の劇場、音楽堂等としての機能が十分に発揮されていない。
- ・実演芸術団体の活動拠点が大都市等に集中しており、相対的に地方では多彩な実演芸術に触れる機会が少ない。

2. 概要

- ①劇場、音楽堂等を設置・運営する者、実演芸術団体等、国、地方公共団体の役割を明確にするとともに、これらの関係者等が相互に連携協力することを明確にする。（第2条～第8条）
- ②国及び地方公共団体を取り組むべき事項を明確にし、劇場、音楽堂等を取り巻く環境の整備等を進める。（第9条～第15条）
- ③劇場、音楽堂等の事業の活性化に必要な事項に関する指針を国が作成する。（第16条）

（参考）

第2条 「劇場、音楽堂等」、「実演芸術」の定義

第3条 劇場、音楽堂等の事業

第4条 劇場、音楽堂等を設置・運営する者の役割（実演芸術の水準向上等）

第5条 実演芸術団体等の役割（実演芸術に関する活動の充実等）

第6条 国の役割（劇場、音楽堂等に係る環境の整備その他の必要に応じた施策の策定、実施）

第7条 地方公共団体の役割（地域の特性に応じた施策の策定、実施）

第8条 関係者等（劇場、音楽堂等を設置・運営する者、実演芸術団体等、国及び地方公共団体）の相互の連携及び協力

第9条 国及び地方公共団体の財政上・金融上・税制上等の措置

第10条 国際的に高い水準の実演芸術の振興等

第11条 国際的な交流の促進

第12条 地域における実演芸術の振興

第13条 人材（制作者、技術者、経営者、実演家等）の養成及び確保等

第14条 国民の理解と関心の増進

第15条 学校教育との連携

第16条 劇場、音楽堂等の事業の活性化に関する指針の策定（文部科学大臣）

（出典：文化庁ホームページ）

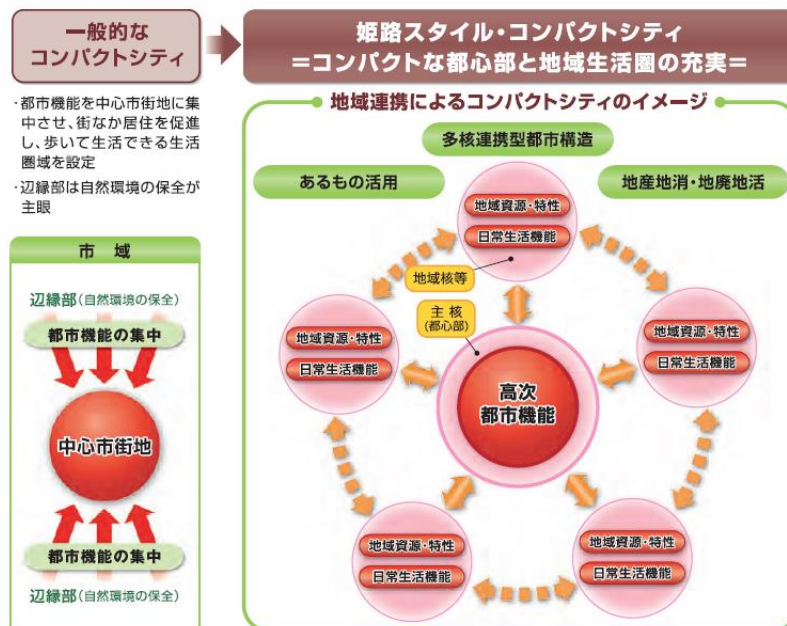
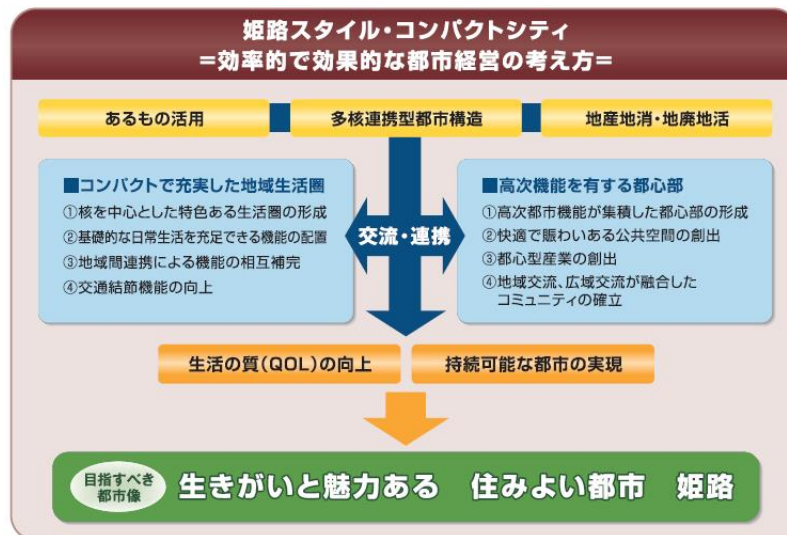
(2) 姫路市の都市づくりを進める方策

「姫路市総合計画」では、地域特性や地域資源に着目した独自の都市経営戦略として、「新しい都市づくりを進める方策＝姫路スタイル＝」を設定し、目指すべき都市像である「生きがいと魅力ある 住みよい都市 姫路」の達成を加速する推進エンジンとしている。以下、当基本計画において主に関連する2つの方策を記載する。

① コンパクトシティの推進

目指すべき都市のかたちである「多核連携型都市構造」、地域が持つ資源や既存の都市基盤の維持と活用（あるもの活用）、環境の保全等に寄与する資源循環（地産地消・地産地活）を基調とする、都市全体としてコンパクトな都市経営を推進する。

<姫路スタイル・コンパクトシティ>

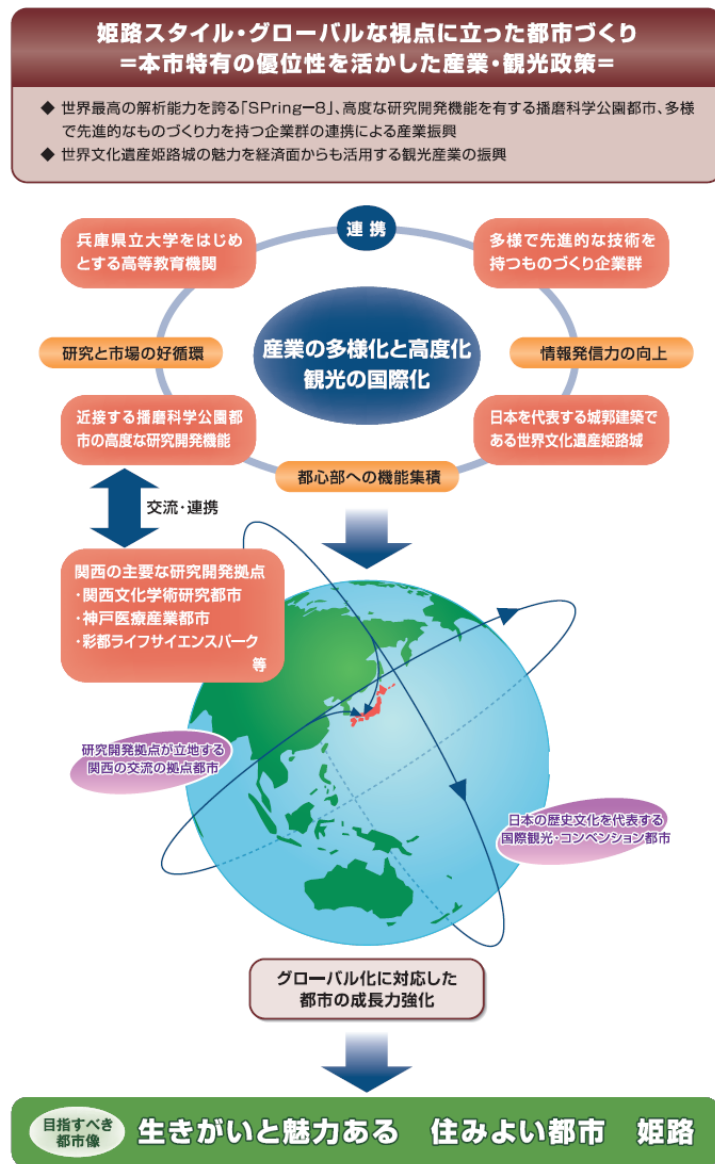


資料：『姫路市総合計画』

② グローバルな視点に立った都市づくりの推進

研究と市場の好循環をつくる仕組みの構築、都心部への高次都市機能の集積、情報発信力の向上により、産業の多様化・高度化や観光の国際化を図り、グローバル化に対応した都市の成長力強化に努める。

＜姫路スタイル・グローバルな視点に立った都市づくり＞



資料：『姫路市総合計画』

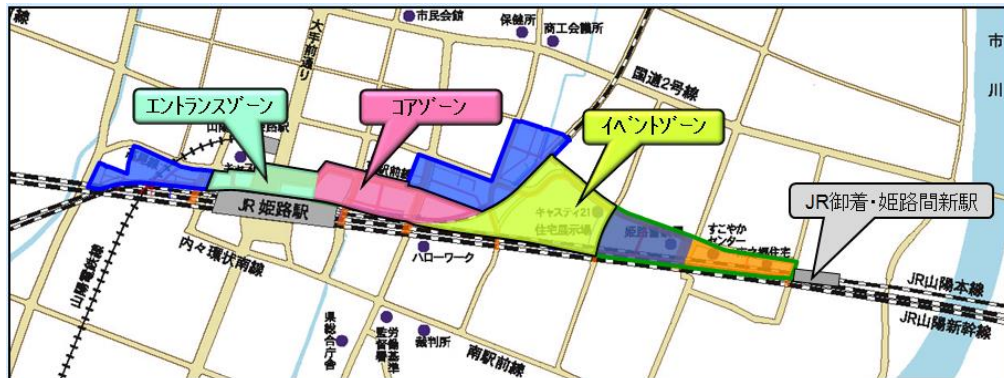
(3) イベントゾーンの概要

① 特性

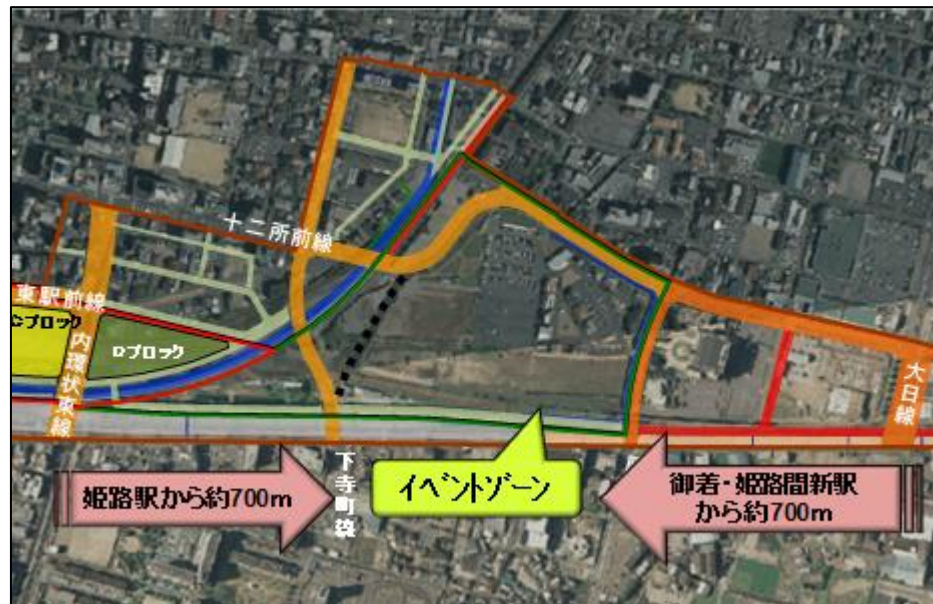
位置	JR 姫路駅の東約 700m (西端) ※整備中の JR 御着・姫路間新駅からもほぼ等距離
面積	約 6.6ha
用途地域	近隣商業地域
容積率/建ぺい率	300%/80%

周囲には、都市計画道路十二所前線(幅員 20m)、阿保線(幅員 15m)、下寺町線(幅員 16m)や区画道路(幅員 10m)が配置され、南側には JR 山陽本線・JR 山陽新幹線、北西側には JR 播但線・外堀川が位置する。

ア) キャスティ 21 区域



イ) 現況 (航空写真)



② 各種計画における位置づけ

ア) 姫路市総合計画

イベントゾーンは、先端技術をはじめとする学術研究や新技術などの展示機能、国際的、広域的な情報交流を促進するコンベンション機能、市民の自発的な創造・交流活動を支援する機能、観光支援や交通円滑化支援機能を導入することにより、幅広い世代の市民や国内外の人々が集う多様な交流活動の拠点とする。

イ) 新市建設計画

JR 姫路駅周辺地区については、鉄道高架とあわせ、交差道路や高架側道、内々環状道路等を整備する。さらに高次都市機能の集積とともに、市街地再開発事業などの土地の高度利用を促進し、播磨の発展の核としてふさわしい魅力と活力のある都心の形成を図る。

【主要施策】

活力ある都心の形成と拠点の整備

ウ) 姫路市都心部まちづくり構想

本市が所有している都心部に残された最後の大規模空間であり、都心部のまちづくりにおいて重要な役割を担うゾーンである。このため、本ゾーンを「交流と創造のうるおいひろば」と位置づけ、交流、創造、うるおいなどをキーワードとする機能の導入を図っていく。本ゾーンにこのような機能を導入することで、人々が回遊する新たな動線が形成され、都心部の回遊性の面的な拡大による賑わいのある都心づくりが期待できる。なお、鉄道からの眺望を考慮して、人々の印象に残る空間づくりを検討していく。

i 交流機能

先端技術をはじめ、新技術等の紹介・展示、また国内外の人々が集う幅広い交流や屋内外のイベントの開催など、様々な規模の交流活動の場としての機能。
(フレキシブルな展示・イベント施設、地域紹介の場等)

ii 市民活動充実に資する創造活動支援機能

市民の芸術・文化活動の創造・発表の場など、市民がこころ豊かで生き生きと楽しみのある生活を送ることができる機能。(スタジオ・ミニホール等)

iii 観光支援・交通円滑化支援機能

幹線道路からの良好なアクセス条件を活用し、姫路城をはじめとする都心部の観光スポットへの車の玄関としての機能。(駐車場、ループバスストップ、レンタサイクル、観光案内所等)

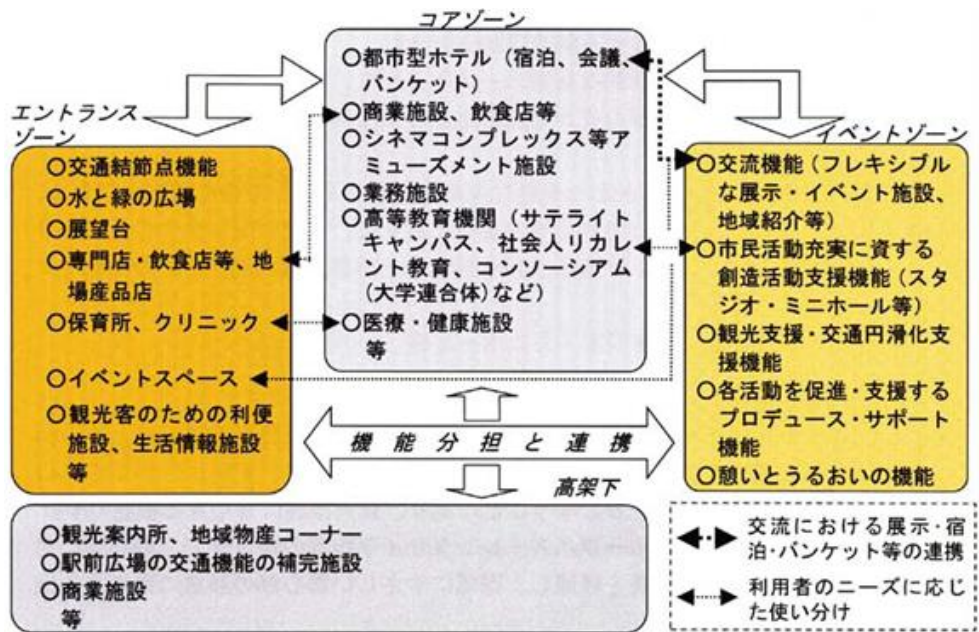
iv 各活動を促進・支援するプロデュース・サポート機能

交流や創造活動支援など、イベントゾーンで営まれる活動を促進し、裏方となって実施を支援する機能。(各活動を支援する事務局等)

v 憩いとうるおいの機能

緑や水辺の導入を図り、多世代の市民が集い、憩いやうるおいを共有するとともに健康づくりにも寄与することができる空間機能。（市民ひろば・市民の森等）

＜キャストィ21の各ゾーンの機能分担・連携イメージ＞



資料：『姫路市都心部まちづくり構想』

(4) 姫路市における MICE 推進及び文化・芸術の振興の考え方とイベントゾーン

① MICE 推進の考え方

「(1) 我が国の社会経済動向、まちづくりの潮流」で掲げたように、本市においても、今後、急速な少子高齢化の進展が展望される中、本市、さらには播磨地域の強みを活かした地域の総力をあげた成長戦略が必要となる。

こうした成長戦略については、官民一体となって国際会議観光都市としての魅力を発信し、国内外からのコンベンションや外国人観光客の誘致を積極的に推進し、世界文化遺産姫路城を有する本市の優位性などの情報発信による魅力ある都市イメージのさらなる向上に努め、日本の歴史文化を代表する国際観光・コンベンション都市を目指すとともに、播磨の連携中枢都市として、播磨地域の厚い産業集積を活かした「ものづくり力の強化」や多彩な地場産品による「地域ブランドの育成」、さらに、これらも含めた豊かな地域資源の活用による「交流人口の増加」を促進することとしている。

このような交流を核としたまちづくりを推進する舞台としては、まちづくりの潮流で示したように「都市」の役割が重要であり、中でも、商業・業務をはじめとする県下有数の都市機能集積を有するとともに、交通結節点であり、また、国内外から多くの人を訪れる世界文化遺産・姫路城を有する本市の都心部における施策展開が不可欠となる。

また、本市では、「多核連携型都市構造」のコンパクトシティの推進やグローバルな視点に立った都市づくりの推進を図ることを目指しており、この観点からも、国内外を対象とする広域レベルでの交流や MICE の推進は、都市基盤施設や既存施設集積が顕著である都心部を適地として展開されることが望ましい。

② 文化・芸術の振興の考え方

一方、都市や地域が持続的に成長するためには、活力の源泉と言える市民が物的な豊かさだけでなく、様々な価値観やライフスタイルを充足させる精神的な豊かさを併せ持ち、その都市や地域に住み続けることが重要となる。特に近年では、生活の質(QOL)の向上という観点から、文化・芸術に対する関心が高まり、質的にも幅広く多様なニーズが出てきている。

本市では、これまで、文化芸術振興の拠点施設として、手柄山中央公園に立地する文化センターがその役割を担ってきた。しかし、現文化センターは建設から42年が経過し、老朽化による影響が大規模改修のみでは対応できない現状など様々な問題を抱えている。また、本市の文化芸術活動と既存施設の関係では、練習室の不足や、活動内容、規模に見合ったホールがないなど、文化・芸術の創造支援が十分に行われていないのが現状である。また、市民団体等の主体的かつ創造的な活動や文化イベントと市民をつなぐ交流の場の整備も求められている。

以上の観点から、新たな文化芸術振興の拠点施設として、現文化センターの機能

更新に加え、市民等の文化芸術活動のニーズに合致した機能の強化を図った新たな施設整備が求められている。

③ イベントゾーン整備の考え方

このような本市及び地域レベルでの要請がある中で、都心部での最後の大規模空間とも言えるイベントゾーンを見ると、以下の利点がある。

- ・ MICE 推進や文化・芸術の振興の拠点を形成するために必要な、数 ha 単位での用地確保が可能
- ・ 都心部に施設を集約することで、コンパクトシティの考え方による、「効率的で効果的な都市経営」を実践することが可能
- ・ 本市最大の交通結節点である姫路駅から約 700m の徒歩圏内に位置し、非常に便利な交通アクセスの確保が可能
- ・ 文化センターの移転による機能更新であるため、建替期間中も現文化センターの利用が可能
- ・ MICE 利用者による経済波及効果が近接する市街地に及ぶことが期待され、本市の重要施策である中心市街地活性化への貢献が可能
- ・ 新たな用地取得を行う必要がなく、スクラップ&ビルドにより施設を集約することで、資産の効率的な計画、管理、運営が可能

以上を踏まえ、イベントゾーンにおいては、以下の 2 点を目指した整備を行うこととする。

ア) 播磨地域を中心に、交流と観光をセットにした都市・地域成長戦略として、MICE 推進による地域の国際化、活性化を図るまちづくりに対応するとともに、播磨の連携中枢都市として、「ものづくり力の強化」、「地域ブランドの育成」、「交流人口の増加」を促進する MICE 推進の拠点を形成

イ) 播磨地域レベルの芸術文化の創造・発信拠点として、より多くの市民が芸術文化を享受し交流できる「場」、既存施設を継承発展させた播磨の連携中枢都市にふさわしい、文化、芸術の拠点を形成

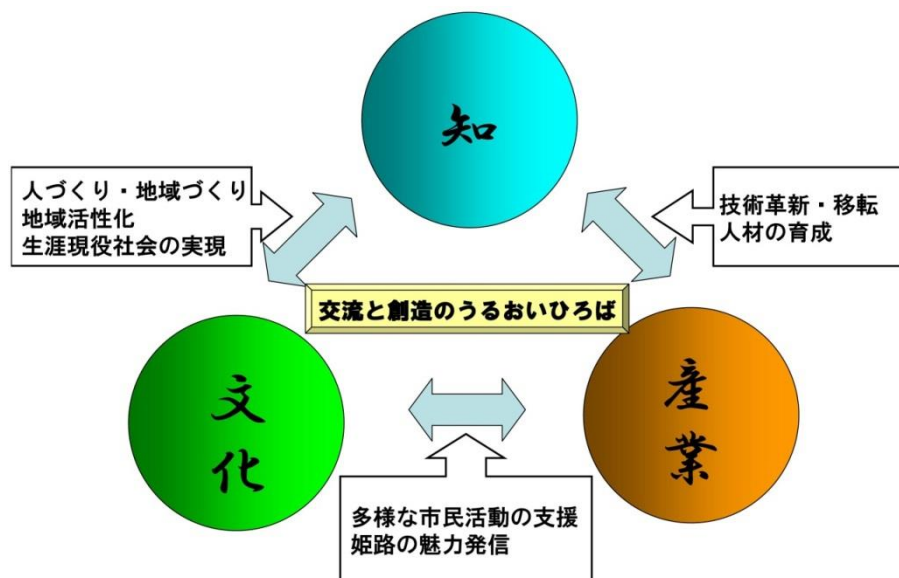
(5) 整備コンセプト

都心部まちづくり構想においてイベントゾーンは、「播磨の中核都市にふさわしい都市の顔としてのエントランスゾーン」や、「新たな高次都市機能が集積する商業・業務拠点であるコアゾーン」との連携のもと、「交流と創造のうるおいひろば」と位置づけられ、交流、創造、うるおいなどをキーワードとする機能の導入を図ることとしている。

また、このゾーンでは、「コンパクトシティ」の観点から文化センター、音楽演劇練習場等の文化機能の姫路駅周辺への集積が期待されるとともに、他都市に比べ、本市で特に不足している展示機能の充実が望まれている。

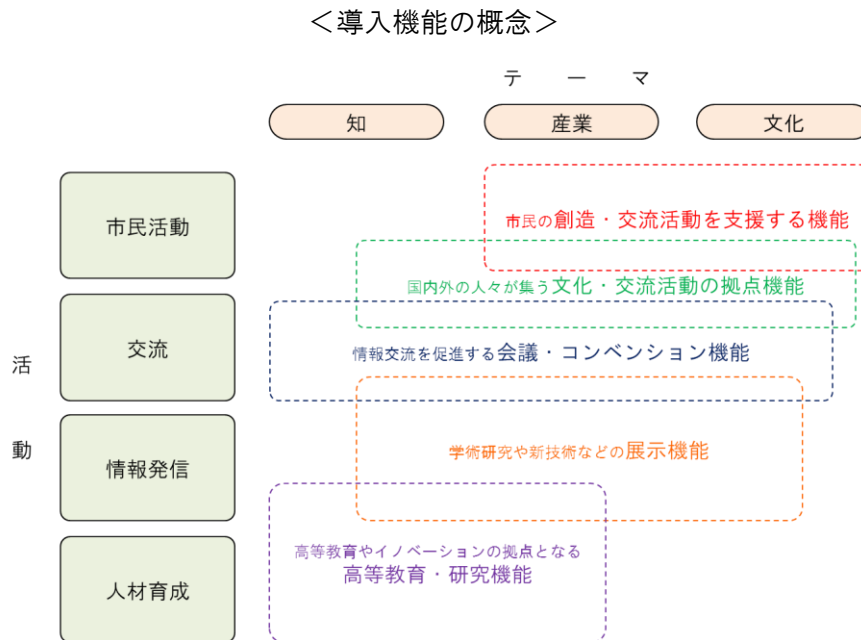
これらのことを踏まえ、イベントゾーンには、「知と文化・産業の交流拠点」を整備コンセプトに、芸術・文化等の市民の自発的な創造・交流活動を支援する機能や、幅広い世代の市民や国内外の人々が集う多様な交流活動の拠点機能を配置するとともに、我が国の歴史文化を代表する国際観光・コンベンション都市を目指し、先端技術をはじめとする学術研究や新技術などの展示や国際的・広域的な情報交流を促進するコンベンション機能を備えた施設を整備する。

＜整備コンセプトの概念＞



(6) 導入機能

イベントゾーンの導入機能を、整備コンセプトである「知と文化・産業の交流拠点」に基づき、活動とテーマの関係から以下のように位置づける。



① 文化・交流活動の拠点機能

市民が主体的な表現活動を行うことができる文化の交流拠点であるとともに、市民や来訪者が多様な文化・芸術に触れることのできる、大規模な集客施設としての機能。

② 創造・交流活動を支援する機能

市民の芸術・文化活動の創造・発表の場の提供や市民の活動を支援し育むなど、市民がこころ豊かでいきいきと楽しみのある生活を送ることができる機能。

③ 展示機能

地域の企業が有する創造的ものづくり力の強化を図り、内発的發展を促進するため、産業見本市、展示会などが開催できる機能。あわせて、スポーツイベントや大規模な集客イベント、全市的なイベントなどが開催できる機能。また、災害時に、避難所や物資の集配拠点、要員の活動拠点となる機能。

④ 会議・コンベンション機能

本市のものづくり力や交通利便性、他にない観光資源などの優位性から生まれるコンベンションの開催需要を受け止め、分科会がある学会など複数の会議を一箇所で開催でき、国際会議や学術会議など多様なコンベンションに対応できる機能。

⑤ 高等教育・研究機能

高等教育を支援する機能や、先端技術をはじめとする学術研究や新技術の開発などを促進するとともに、新たなイノベーションを実現する機能。

(7) エリアの設定及び段階的整備

① エリアの設定

イベントゾーンにおけるエリアを以下のように設定する。



② 段階的整備

「文化・コンベンションエリア」については、基本的に市が事業主体となり、施設の整備を検討している。一方、「高等教育・研究エリア」については、現在、誘致に向けて取組みが進められているが、市以外が事業主体になることが予想される。2つのエリアは同時並行で議論が進められることが最善であるが、計画熟度が異なることから、基本計画を同時に策定することは難しく、かつ、整備時期を同期できるかについても不透明である。

このような状況において、これ以上、「文化・コンベンションエリア」の整備時期を延長することは、土地の有効活用や財源確保、整備効果の早期発現の観点から望ましくないと考えられる。

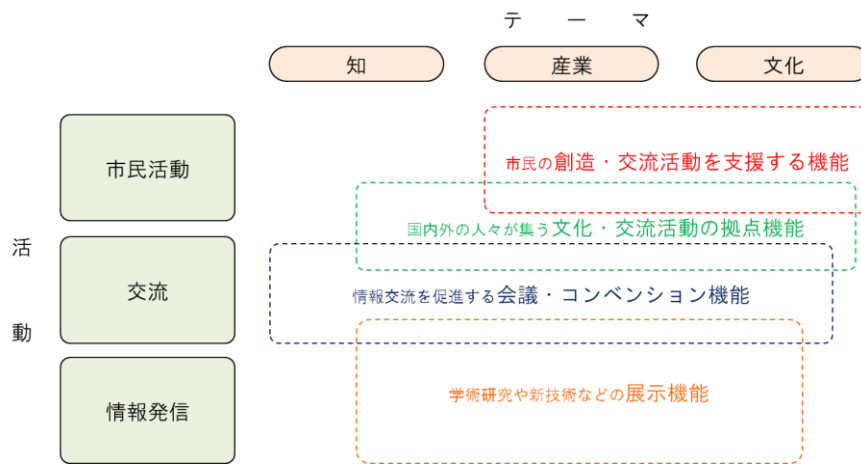
については、本計画では、「高等教育・研究エリア」の位置づけを保持しつつ、「文化・コンベンションエリア」を対象に、先行して基本計画を策定し、施設整備に向けた取組みを進めることとし、「高等教育・研究エリア」の誘致先や整備内容が具体化した段階で本市との相互協力のもと、共同し段階的な整備を行うこととする。

2 文化・コンベンションエリアの整備基本方針

(1) 導入機能

イベントゾーンの導入機能のうち、文化・コンベンションエリアの導入機能は、「文化・交流活動の拠点機能」、「創造・交流活動を支援する機能」、「展示機能」及び「会議・コンベンション機能」の4つとする。

<導入機能の概念>



① 文化・交流活動の拠点機能

市民が主体的な表現活動を行うことができる文化の交流拠点であるとともに、市民や来訪者が多様な文化・芸術に触れることのできる、大規模な集客施設としての機能。

② 創造・交流活動を支援する機能

市民の芸術・文化活動の創造・発表の場の提供や市民の活動を支援し育むなど、市民がこころ豊かで生き生きと楽しみのある生活を送ることができる機能。

③ 展示機能

地域の企業が有する創造的ものづくり力の強化を図り、内発的発展を促進するため、産業見本市、展示会などが開催できる機能。あわせて、スポーツイベントや大規模な集客イベント、全市的なイベントなどが開催できる機能。また、災害時に、避難所や物資の集配拠点、要員の活動拠点となる機能。

④ 会議・コンベンション機能

本市のものづくり力や交通利便性、他にない観光資源などの優位性から生まれるコンベンションの開催需要を受け止め、分科会がある学会など複数の会議を一箇所で開催でき、国際会議や学術会議など多様なコンベンションに対応できる機能。

(2) 周辺施設との機能連携

① 高等教育・研究エリアとの連携

高等教育・研究エリアで行われる先端的な学術研究・新技術等の展示や、国際的・広域的な情報交流を促進するコンベンションの場として連携を図る。

② コアゾーン等との連携

MICE の推進には宿泊滞在機能やホスピタリティサービスの充実が不可欠である。そのため、コアゾーンに立地が予定されている宿泊機能やバンケット、会議室機能等、周辺施設との連携を図る。

③ 中心市街地活性化への貢献

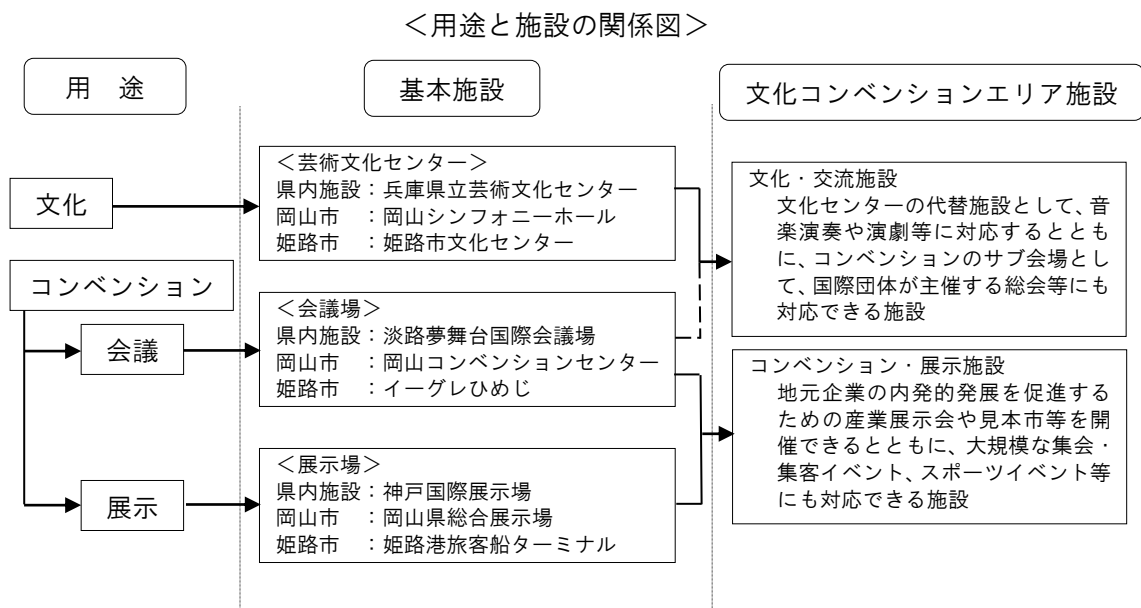
姫路駅と姫路城をつなぐ南北の賑わい軸に加え、姫路駅とイベントゾーンをつなぐ新たな東西の賑わい軸を創出するとともに、規模や内容等による棲み分けに配慮しながら既存の周辺施設との連携を強化し、人々が回遊する新たな動線を形成させることで、都心部の回遊性の面的な拡大を促進し、中心市街地の活性化に貢献する賑わいある都心づくりを推進する。

3 施設の構成と規模の設定

(1) 施設構成

① 施設の機能分析

導入機能から想定される「文化」、「会議」、「展示」の3つの用途に対し、それぞれに基本施設を計3施設整備する対応も想定されるが、文化・コンベンションエリアでは、以下に示す理由をもとに施設を多用途化することで2つの施設に集約する。



他都市の事例を見ると、政令指定都市レベルでは、必要な用途に対応した基本施設を、それぞれ個別に整備している状況にある。

一方、中核市レベルでは、用途に合わせて施設を個別に整備することは、その財政規模に比して建設費や管理運営費が高額になる等の理由から、施設を多用途化することで対応する事例が多い。

本市のイベントゾーンに設置する施設は、都心部の大規模空間に、各種施設を併設できるというメリットを最大限に活かし、文化、展示、コンベンションの各施設を、それぞれの本来の用途に十二分に活用できるよう整備しつつも、各施設の機能を用途に合わせ、有機的に連携活用することにより、エリア全体として付加価値が高まるような施設とすることが望ましい。

これらの状況を踏まえ、施設の整備イメージとして、上記の3つの用途を、「文化・交流施設」及び「コンベンション・展示施設」に集約する。

② 施設の基本特性

文化・コンベンションエリアに整備する「文化・交流施設」、「コンベンション・展示施設」の基本特性を整理する。

ア) 文化・交流施設

国においては、「文化芸術振興基本法」のもと、劇場法が制定され、地方公共団体の役割として、「自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び当該地方公共団体の区域内の劇場、音楽堂等を積極的に活用しつつ実施する役割を果たすよう努めるものとする」と謳われている。

一方、本市では、総合計画において、地域への愛着や誇りを育む学術的取組み、文化拠点施設での活動の促進、市民やまちづくり団体が主体となって行う多様な文化活動への支援を通して、市民が様々な文化に触れ、学ぶことができる機会を提供することや、幅広い文化、芸術活動に取り組むことが出来る環境の充実に努め、個性ある文化の創造と発信を促進することとしている。

この政策を実現するため、文化・交流施設の基本特性を以下のとおり設定する。

～文化・交流施設の基本特性～

芸術文化の創造・発信拠点として、より多くの市民が芸術文化を享受し交流できる「場」として、既存施設を継承発展させた播磨の連携中枢都市にふさわしい、文化、芸術の拠点施設

イ) コンベンション・展示施設

国においては、平成20年の観光庁の設立、「観光立国」政策や「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の推進、「国際会議観光都市」の指定、「2010年 Japan MICE Year」の実施など、積極的に MICE 政策を推進している。

一方、本市では、平成17年3月に「国際会議観光都市」に認定されるとともに、平成18年4月には「社団法人姫路観光コンベンションビューロー」を発足させるなど、国際観光・コンベンション都市の実現を目指して種々の施策を展開している。

また、総合計画において、国際会議観光都市としての魅力を発信し、国内外からのコンベンションや外国人観光客の誘致を積極的に進めるとともに、世界文化遺産姫路城を有する本市の優位性などを、温暖な気候や豊かな自然という地理的特性と併せて情報発信し、魅力ある都市イメージのさらなる向上に努め、日本の歴史文化を代表する国際観光・コンベンション都市を目指すこととしている。

また、播磨地域の厚い産業集積を活かし、環境など今後の成長分野を視野に入れながらもものづくり力を強化するとともに、多彩な地場産品により地域イメージを向上していくことで、はりまブランドを確立、さらに、これらも含めた世界文化遺産・姫路城をはじめとする豊かな地域資源の活用により、交流人口を増加し

ていくことが求められている。

この政策を実現するため、コンベンション・展示施設の基本特性を以下のとおり設定する。

～コンベンション・展示施設の基本特性～

交流と観光をセットにした都市・地域成長戦略として、MICE 推進による地域の国際化、活性化を図るまちづくりに対応するとともに、播磨の連携中枢都市として、「ものづくり力の強化」、「地域ブランドの育成」、「交流人口の増加」を促進する MICE の拠点施設

【参考】他都市の事例

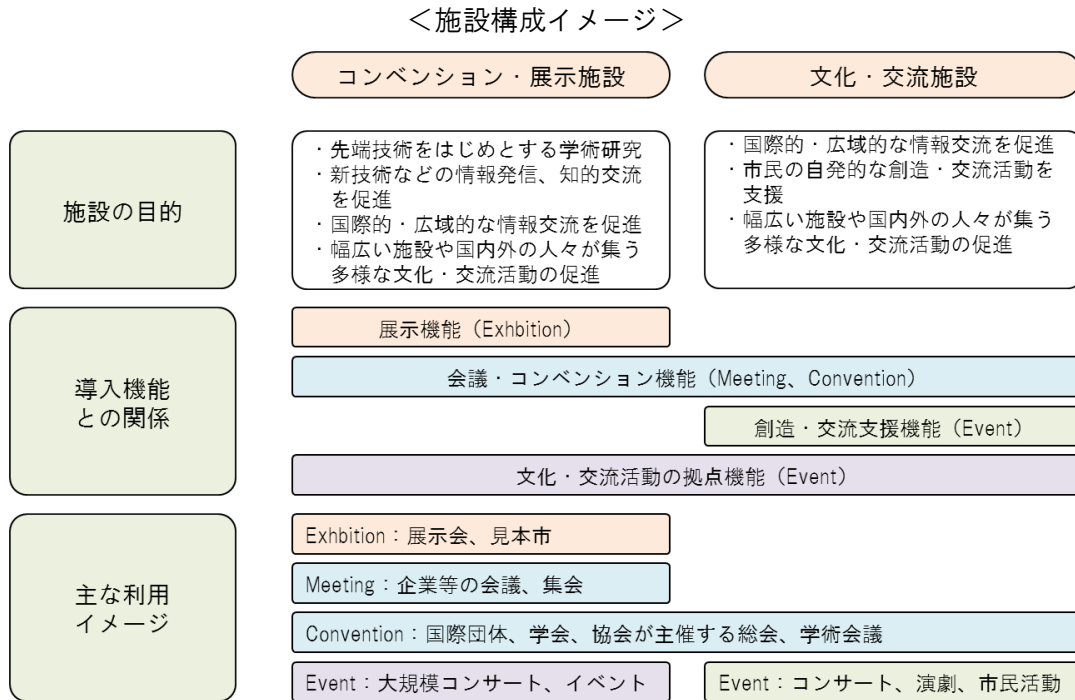
政令指定都市と中核市では、保有している施設に隔たりがある。特に中核市では、建設費や維持管理費の問題で、一施設で多様な用途に対応する必要があるため、施設が多用途になっているうえに、施設の設置者が県であるケースが多い。

<他都市事例>

		文化ホール	展示場	会議室
政令指定都市	岡山市	岡山シンフォニーホール(県、市) 大ホール:2,001 席 イベントホール:150 m ² 和風ホール:48 畳 スタジオ1:130 m ² スタジオ2: 60 m ²	岡山県総合展示場(県) 大展示場: 3,797 m ² 、4,300 席 固定・可動席なし、2 分割 中展示場:2,571 m ² 岡山コンベンションセンター コンベンションホール: 745 m ² 、可動席あり イベントホール:595 m ²	岡山県総合展示場(県) 国際会議場:648 席 中会議室:65 席 2 室 小会議室:26 席 5 室 岡山コンベンションセンター 36~160 席 8 室
	浜松市	アクトシティ浜松 大ホール:2,336 席 中ホール:1,030 席 音楽工房ホール:308 席 リハーサル室:320、266 m ² 音楽セミナー室:13 室	アクトシティ浜松 展示イベントホール: 3,500 m ² 、5,300 席、 3 分割 浜松市総合産業展示館 第1 展示場:1,920 m ² 第2、3 展示場:888 m ² 浜松アリーナ メインアリーナ:2,860 m ² 、 固定・可動席あり サブアリーナ:1,360 m ²	アクトシティ浜松 コングレスセンター: 18~560 席 13 室、 分割可
	新潟市	新潟市民芸術文化会館 コンサートホール:1,994 席 劇場:898 席 能楽堂:382 席	新潟コンベンションセンター(県、市) 展示ホール:7,800 m ² 新潟市産業振興センター 展示ホール:4,455 m ²	新潟コンベンションセンター(県、市) メインホール:1,000 席 国際会議室:548 席 中会議室: 230 席 3 室、2 分割 小会議室:40 席 8 室
中核市	松山市	愛媛県県民文化会館(県) メインホール:3,000 席 サブホール:1,000 席	愛媛国際貿易センター(県) 大展示場:4,500 m ² 小展示場:1,500 m ²	愛媛県県民文化会館(県) 135 席 1 室、102 席 1 室 54 席 2 室、48 席 3 室 36 席 2 室
	福山市	ふくやま芸術文化ホール 大ホール:2,003 席 小ホール:2312 席 練習室大:223 m ² 練習室小:2298 m ²	広島県立ふくやま産業交流館(県) 大展示室:4,476 m ² 、4 分割 小展示室:4498 m ² 、2 分割	広島県立ふくやま産業交流館(県) 10~207 席 7 室
	宇都宮市	宇都宮市文化会館 大ホール:2,006 席 小ホール:2506 席 第1 練習室:190 m ² 第2 練習室:198 m ²	栃木県立宇都宮産業展示館(県) 大展示場:2,665 m ² 小展示場:2336 m ² 展示ホール:200 m ²	宇都宮市文化会館 100 席 1 室、60 席 1 室 30 席 1 室、18 席 1 室

③ 主な施設構成イメージ

各施設の主な利用イメージについて、施設の目的及び導入機能との関係を踏まえて以下の通り整理する。



④ 想定される利用形態

ア) 文化・交流施設

文化・交流施設は、現文化センターや音楽演劇練習場を継承発展させた、文化・芸術の拠点であり、音楽、演劇等の専用施設を想定している。

また、本来の用途を十二分に活用できる施設としたうえで、都心部の大規模空間に、各種施設を併設できるというメリットを最大限に活かし、各施設の機能を用途に合わせ、有機的に連携活用することにより、さらに付加価値を高めた利用も可能である。

特に、各種施設の独立性を確保しつつ、利用者の受付機能、管理機能や情報発信などの交流機能については、共同や一体的利用を促進することが大切である。

<類似する全国の文化・交流施設>

施設名	使用事例 (HP 参照)	稼働率	収支状況
大分県立 総合文化センター ＜指定管理者＞ 公益財団法人 大分県芸術文化 スポーツ振興財団	九州合唱コンクール さだまさしコンサートツアー 松竹大歌舞伎公演 他 音楽部門 295 件 講演・大会等 87 件 舞踊部門 44 件	大ホール 中ホール 平均 89%	収入 378,723 千円 内 委託料 113,885 千円 支出 378,723 千円 収支 0 千円
神戸文化ホール ＜指定管理者＞ 神戸市民文化 振興財団・ 神戸国際会館 共同事業体	NHK 交響楽団神戸公演 神戸 JAZZ2013 他 音楽部門 122 件 大会・式典等 84 件 演劇部門 32 件 舞踊部門 28 件	大ホール 82%	収入 436,056 千円 内 指定管理料 133,272 千円 支出 461,555 千円 収支 ▲25,499 千円
新潟県民会館 ＜指定管理者＞ 公益財団法人 新潟県文化振興財団	松竹大歌舞伎公演 宝塚歌劇団 星組公演 劇団四季ミュージカル 他 音楽部門 65.5% 演劇・舞踊部門 25.6% 大会等 8.9%	大ホール 58%	収入 185,161 千円 内 指定管理料 58,980 千円 支出 195,214 千円 収支 ▲10,053 千円
札幌 コンサートホール ＜指定管理者＞ 公益財団法人 札幌市芸術文化財団	バーゼル歌劇場公演 ピアノリサイタル オルガンリサイタル 札幌交響楽団公演 北海道教育大学コンサート クラシック入門講座 他	大ホール 82%	収入 901,799 千円 内 指定管理料 555,318 千円 支出 902,553 千円 収支 ▲754 千円

イ) コンベンション・展示施設

コンベンション・展示施設は、いわゆる国際コンベンション等の大規模な会議のみを主な用途とする施設ではなく、「展示会、見本市」、「企業等の会議、集会」、「学会等が主催する総会、学術会議」、「コンサート、イベントなど」等、多用途な利用を想定している施設である。

市内の既存施設では、500人規模以上の会議、集会、式典、大規模な展示会、見本市、コンサート等について、これまでは規模的な面から開催が困難であったが、こうした課題に対処することで、幅広い用途での利用を見込むことのできる施設とする。

＜類似する全国のコンベンション・展示施設＞

施設名	使用事例 (HP 参照)	稼働率	収支状況
栃木県立 宇都宮産業展示館 ＜指定管理者＞ 大高商事グループ	宇都宮大学企業交流会 美術骨董市、とちぎ住宅フェア 住まいの大リフォーム博 進路相談会、補正下着展示会 ランドセル展示説明会 リンナイ新製品提案会 他	大展示場 60%	収入 168,759 千円 支出 131,456 千円 納付金 23,000 千円 収支 14,303 千円
山梨県立 産業展示交流館 ＜指定管理者＞ 公益財団法人 やまなし産業 支援機構	ジュエリーフェア 骨董&棚卸市、プロレス興行 全国建築板金工業会 FP 技能検定、就職セミナー 山梨テクノ ICT メッセ ロボコンやまなし 他	ホール 施設平均 50%	収入 109,789 千円 支出 98,402 千円 納付金 11,294 千円 収支 93 千円
福井県産業振興施設 ＜指定管理者＞ 一般財団法人 福井県産業会館	五木ひろしコンサート 全国グルメ博、見本市 市民団体によるシンポジウム 全高総文祭開会式 少林寺拳法国際大会 世界体操選手権 他	イベント ホール 49%	収入 197,881 千円 内 指定管理料 51,414 千円 支出 164,857 千円 収支 33,024 千円
岡山県総合展示場 ＜指定管理者＞ コンベックス岡山 コンソーシアム	九州うまいもんフェア 鉄道博、陶器展示即売会 自動車即売会、AKB48 握手会 ダンス競技大会 仮面ライダーショー ハンドメイドフェスタ 他	展示場 56%	収入 519,259 千円 支出 374,978 千円 納付金 118,440 千円 収支 25,841 千円
広島県立 ふくやま産業交流館 ＜指定管理者＞ 株式会社オオケン	日立家電展示会 古美術品・骨董品展示販売会 住宅設備展示会 LP ガス関連機器販売会 大型ジェットインクプリンタ-展示会 心とからだ健康講座 他	展示場 25%	収入 106,406 千円 支出 99,919 千円 納付金 4,000 千円 収支 2,487 千円

ウ) 災害への対応

文化・交流施設については、「避難所機能」、「帰宅困難者受け入れ機能」等、コンベンション・展示施設には、「災害用応援物資集積拠点機能」等の防災、災害対応機能についても検討する。

(2) 施設規模

文化・交流施設、コンベンション・展示施設それぞれの望ましい施設規模を以下の通り設定する。

また、施設規模の検討に当たり、民間施設を含めた既存施設の状況や施設連携等を考慮し、文化・交流施設を「文化センター」「音楽演劇練習場」、コンベンション・展示施設を「展示（多用途）施設」「会議施設」に分けて整理する。

① 文化・交流施設（文化センター）・・・P.42 参照

ア) 施設の強み（シーズ）と必要性（ニーズ）

シ ー ズ	1) 播磨の連携中枢都市であるため、周辺市町からの利用、集客がある 2) 新幹線の駅から徒歩圏であり、広域の集客が見込める 3) 市民の文化意識が高く、文化団体の活動も活発である 4) 既存施設の稼働率が高く、十分な需要が見込める 5) 開催機会を逃している催しがあり、潜在的な需要が見込める
ニ ー ズ	1) 各種団体から多様な意見、要望があり、期待度が高い 2) 現在の文化センターは老朽化しており、施設の使い勝手が悪く、時代のニーズにあっていない 3) 他都市との比較や市内施設との役割分担から、1,800～2,000 席程度の施設が必要 4) 市民、広域の来場者にとって魅力があり、利用しやすい施設とするには、駅から近く、商業エリアに近いことが望ましい 5) 連携中枢都市としての機能を高めるため、播磨圏域の文化振興を牽引する機能の充実が必要 6) 著名アーティストの公演を開催するためには、採算ラインである 2,000 席程度の、質の高い音楽ホールが必要 7) ル・ポン国際音楽祭の主会場となる質の高い音楽ホールが必要 8) 現文化センターで行っている多様な催しの継続が不可欠

イ) 目指すべき利用

- ・ 質の高い音楽の演奏の場（ル・ポン国際音楽祭の主会場）
- ・ 著名アーティストの公演
- ・ あらゆるジャンルの市民活動の発表の場
- ・ 心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現等に寄与する（劇場法）ための、人と人との絆を築く自主事業の実施

② 文化・交流施設（音楽演劇練習場）・・・P.50 参照

ア) 施設の強み（シーズ）と必要性（ニーズ）

シ ー ズ	1) 市民の文化意識が高く、文化団体の活動も活発である 2) 多様なジャンルでの利用がある 3) 文化活動支援に果たしている役割は大きい
ニ ー ズ	1) 現施設が老朽化しており、新施設が必要 2) 利便性の高い（交通の便がよく、商業エリアに近い）姫路駅周辺への移転 3) 練習室の数の充実や長期的な利用等に対する要望がある 4) 利用しやすい広さで、使用料が安い施設への要望が高い 5) 道具等の搬入のため、十分な駐車場が必要である

イ) 目指すべき利用

- ・ あらゆるジャンルの市民活動の場

③ コンベンション・展示施設（展示（多用途）施設）・・・P.54 参照

ア) 施設の強み（シーズ）と必要性（ニーズ）

シ ー ズ	1) 製造品出荷額等が同規模の都市に比べて多く、製造業（ものづくり）に強みがある 2) 播磨科学公園都市における先端科学技術や先端産業の集積 3) 兵庫県立大学やものづくりを支援する機関（姫路ものづくり支援センター等）の立地とそれらを繋ぐネットワークが存在する 4) 中小企業団体（はりま産学交流会）による産学連携・産産連携の取組み 5) 播磨の連携中枢都市であるため、周辺市町からの集客が見込める 6) 新幹線の駅があるため、広域の集客が見込める
ニ ー ズ	1) 都心部（姫路駅周辺）に大規模展示会が開催できる専用施設がない 2) 企業による展示会の効果を高めるために展示会、商談会、セミナー等で一体利用（同時開催）できることが望まれている 3) イベント等で多用途に利用できる施設が望まれている 4) 他都市との比較において、3,000～5,000㎡程度の施設が必要

イ) 目指すべき利用

- ・ 製品、学術展示や見本市
- ・ 臨海地区に集積する企業等の会議、集会
- ・ 国際団体、学会等が主催する総会、学術会議
- ・ 大規模コンサート、企業説明会、スポーツ

④ コンベンション・展示施設（会議施設）・・・P.62 参照

ア) 施設の強み（シーズ）と必要性（ニーズ）

シ ー ズ	1) 播磨の連携中枢都市であり、新幹線（特にのぞみ）の停車駅であるなど交通の利便性が高い 2) 製造品出荷額等が同規模の都市に比べ多く、製造業（ものづくり）に強みがあることから関連コンベンションの需要がある 3) 播磨科学公園都市における先端産業や技術の集積、市内大学等の立地 4) 姫路城等、コンベンションの誘致材料になる魅力的な観光資源がある 5) 国際会議観光都市として、これまでのコンベンション誘致活動の実績が蓄積されている 6) 施設規模等を要因として開催機会を逃しているコンベンションがあり、潜在的な需要が見込める
ニ ー ズ	1) 一定規模の主会場と分科会を開催できる複数の会議室がある施設があれば、コンベンションを開催したいという要望が強い 2) 市内施設には、ある程度の会議室数があるものの分散していることから、利用しにくい 3) 姫路城を活用したコンベンション開催誘致に当たって、会場の制約が、誘致活動の阻害要因となっている

イ) 目指すべき利用

- ・ 国際コンベンションの開催
- ・ 日本国内の学会や総会等、製造業等の企業と連携した大規模コンベンションの開催
- ・ 姫路城をはじめとする他にはない地域資源と連動したコンベンションの開催
- ・ 国際団体、学会等が主催する総会、学術会議

⑤ 施設構成と規模

施設の基本特性やシーズ・ニーズ、目指すべき利用より、望ましい施設構成と規模は下記のとおりとする。

<施設構成と規模>

施設構成		望ましい施設の規模等
文化・交流施設	文化センター	大ホール 1,800～2,000 席程度
		中ホール 600～800 席程度
		小ホール 100～200 席程度
		リハーサル室
音楽演劇練習場	練習室 10 室程度	
	300 m ² 1 室、100～200 m ² 3 室 20～50 m ² 6 室	
コンベンション・展示施設	展示（多用途）施設	3,000～5,000 m ² (5,000 m ² 程度が望ましい)
	会議施設	120 人(分割可)×5 室程度

※施設の規模等については、今後、基本設計等において具体化していく。

4 施設配置計画

施設構成、周辺施設との連携、姫路駅からの動線を勘案し、効率的・効果的な施設配置計画とする。

(1) 施設配置計画

- ① 文化・交流施設とコンベンション・展示施設の機能や性質に配慮し、2つの施設は別棟を基本とした配置計画とするが、施設間の連携や受付、管理スペースなど共用する機能にも配慮する。
- ② 「文化・コンベンションエリア」、「高等教育・研究エリア」各々でまとまりのある施設群とし、各機能が将来にわたって十分に発揮できるよう施設を配置するとともに、エリア間の機能連携に配慮した計画とする。
- ③ 姫路駅からのメインエントランスとなる文化・コンベンションエリアは、イベントゾーンの顔となるような施設配置計画とする。
- ④ 広場等の空間を確保し、施設利用者や市民の施設間やエリア間の交流に配慮した施設配置計画とする。
- ⑤ 駐車場については、アクセス性やエリア間の連携等、利用者の利便性に配慮するとともに、交差点の位置、滞留空間等、車両通行の安全性や、道路の渋滞対策、近隣住民の生活に配慮した合理的な配置計画とする。

(2) 交通動線計画

- ① 姫路駅やコアゾーンからのメインアクセスについては、自動車との交錯の少ない安全で快適な歩行者動線を設定する。
- ② 各方面から駐車場への自動車の交通アクセスに配慮した動線計画とする。
- ③ 姫路駅とイベントゾーンを繋ぐシャトルバス等発着のための交通広場、駐車場、荷捌き車の搬入・搬出口等は、十分な間隔を取り、施設間やエリア間で相互に輻輳しないように計画する。

(3) 空間形成方針

- ① 賑わいのある空間形成を目指し、駅からの主要なアクセス動線を受け止める位置にエントランスホール等を配置し、コンベンション・展示施設に隣接した位置に屋外展示スペース等を設けるなどして、施設と広場が一体となった賑わいが発揮できるよう計画する。
- ② うるおいと安らぎのある緑豊かな空間形成を目指し、敷地沿道空間の緑化に加え、沿道から各施設へのアクセス動線を積極的に緑化することで、施設や広場へと導く

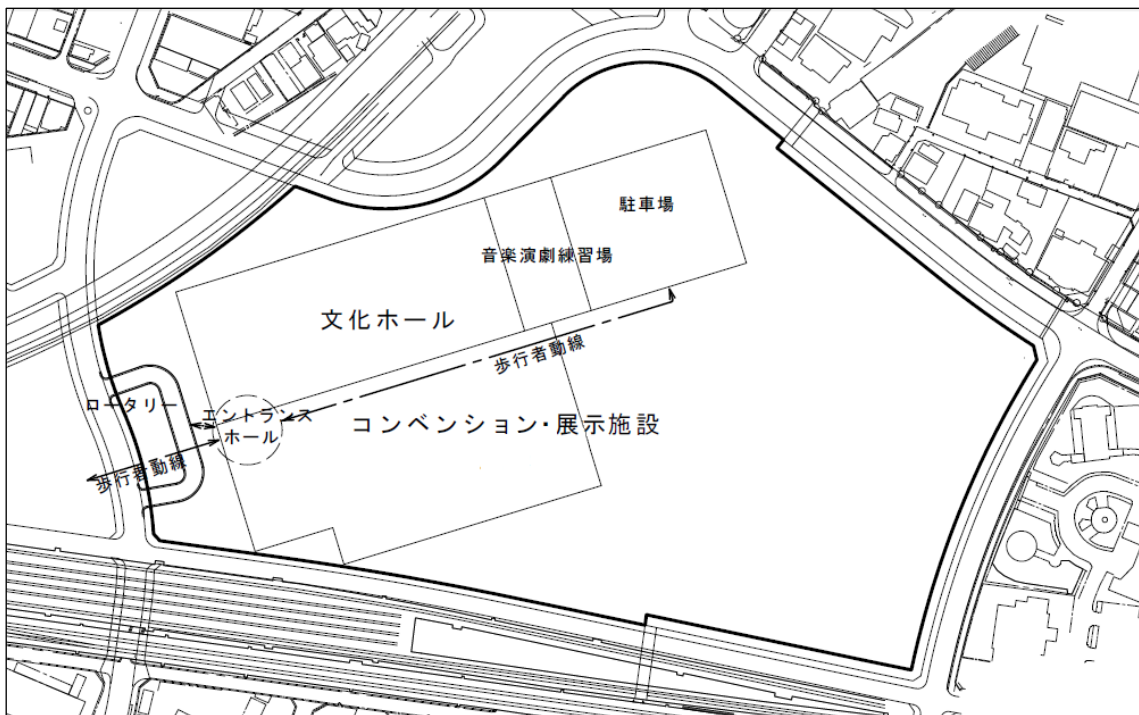
緑のモール空間を創出する。

- ③ 敷地周辺への建物高さや圧迫感に配慮し、十分な離隔距離を確保する。

(4) 施設配置イメージ (試案)

文化・コンベンションエリアの施設配置については、来年度以降、「歩行者動線」、「自動車等交通アクセス」、「不整形な用地への合理的な配置」、「都市計画道路や鉄道線からの景観」等を勘案し、実施予定の施設基本設計において確定することとするが、本基本計画では、施設や駐車場等が概ねどの位置にどのような関係性をもって配置が可能なイメージを共有するため、以下に複数案を提示することとする。

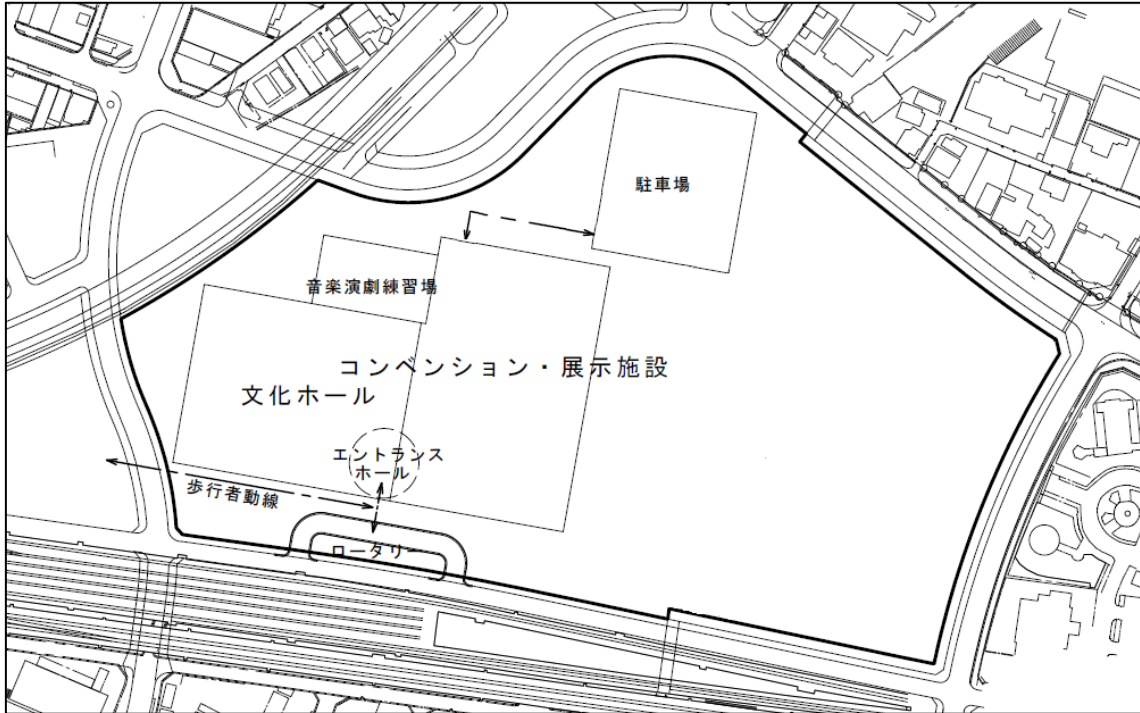
<試案-1>



【参考】施設配置の留意点

- ・ 姫路駅からの人の動線を、できるだけ短距離で両施設のエントランスホールに接続する施設配置とする。
- ・ 自動車やバス、タクシーなどが利用する交通広場や駐車場と、エントランスホールとの近接性に配慮する。
- ・ 施設利用者や市民等の交流に配慮し、広場等の空間を適切に配置する。
- ・ 効率的な土地利用を図るため、両施設の独立性に配慮しつつも、文化・交流施設、コンベンション・展示施設のエントランスホール等の共用など、効率的な施設配置とする。
- ・ 文化・交流施設、コンベンション・展示施設の荷さばき動線や、施設利用者等の駐車場への動線が輻輳しない配置とする。
- ・ 新幹線やJR山陽本線からの景観に配慮した施設配置とする。

< 試案-2 >



< 試案-3 >



5 概算事業費（推計）

本計画では他都市の同規模施設の建設工事費や運営事業費等を参考に「概算建設工事費」及び「概算運営事業費」を推計する。

なお、概算建設工事費は、施設の内容や仕様によって大きく異なり、また近年は東日本大震災の復興事業や東京オリンピック関連の工事増加等により、建設工事費が高騰している。さらに、実施設計及び建設工事は数年後になるため、現時点で正確な建設工事費の算定が困難なことから、一定の幅を持って推計する。

（1）概算建設工事費

① 文化・交流施設

ア) 延床面積の設定

文化・交流施設と類似施設である、まつもと市民芸術館と長崎ブリックホールの延床面積を参考に中・小ホールの有無を加味し、文化・交流施設の延床面積を20,000 m²と設定する。

○まつもと市民芸術館…中ホールなし

延床面積：17,673 m²+中ホール：3,500 m²=21,173 m²

○長崎ブリックホール…小ホールなし

延床面積：21,899 m²+小ホール：1,500 m²=23,399 m²

上記2施設による設定値の平均は22,286 m²であるが、他都市事例は、文化ホール単体で、比較的余裕を持った施設配置となっていることから、文化・交流施設の延床面積を下記のとおり設定する。

文化・交流施設の延床面積≒20,000 m²

イ) 概算建設工事費の算定

延床面積及び大ホール席数をもとに、単位面積・席数当たり建築、音響等の設備に関する経費の事例値を個別に算出し、合算して推計する。

建築費 m²当たり：40～50万円×延床面積：20,000 m²=80～100億円

音響等 席当たり：50～100万円×席数：2,000席=10～20億円

合計 90～120億円

＜他都市の文化施設の建設費等事例＞

施設名	建築時期	客席数(席)	延床面積(m ²)	建設費(百万円)			m ² ・席数あたり建設費(万円)			
				計	うち建築	うち音響等	m ² 当たり	建築m ² 当たり	音響等m ² 当たり	音響等席当たり
兵庫県立芸術文化センター	H17.5	2,000	33,144	20,000			60.3			
まつもと市民芸術館	H16.3	1,800	17,673	14,000			79.2			
長崎ブリックホール	H10.1	2,000	21,899	12,300			56.2			
ミュージアークホール	H5.11	2,000	29,001	16,350	13,761	1,387	56.4	47.4	4.8	69.4
宮崎県立劇場	H5.11	1,818	21,999	12,414	8,719	834	56.4	39.6	3.8	45.9
赤穂ハーモニーホール	H4.5	1,200	9,845	5,400			54.9			

ウ) 概算建設工事費の考え方

文化・交流施設については、既存の文化センター（大ホール、小ホール）と音楽演劇練習場をイベントゾーンに集約し、新たに中ホールを拡充した施設を想定している。また、新施設には、音楽専用施設としての質の向上が求められている。

これらの状況を勘案し、新施設の建設工事費の考え方を整理する。

	既存施設分	施設拡充分	質の向上分	合計	参考(他都市事例からの試算値)
概算建設工事費(億円)	70~90	10	10~20	90~120	121

※他都市事例からの試算値は、前記 6 施設のm²あたり建設費の平均値(60.6万円/m²)に、新施設の延床面積(20,000m²)を乗じた値

② コンベンション・展示施設

ア) 延床面積の設定

コンベンション・展示施設の延床面積は、計画施設と同じく展示場、会議室から構成される他都市類似施設における延床面積/展示・会議室面積比(グロス/ネット比)から設定する。

○コンベンション・展示施設の展示・会議室面積

展示場：5,000m²+会議室：240m²(120人収容)×5室=6,200m²

○他都市類似施設における延床面積/展示・会議室面積比(グロス/ネット比)

下表の事例より、2.0と設定

→ コンベンション・展示施設の延床面積=6,200m²×2.0≒12,500m²

＜他都市のコンベンション・展示施設の施設規模事例＞

施設名	延床面積 (㎡)	展示場面積 (㎡)		会議室面積 (㎡)		展示・会議 面積計	展示・会議 延床面積比
		施設	面積	施設	面積		
栃木県立宇都宮 産業展示館	8,548	大展示場	2,665	大会議室	105	3,384 ㎡	2.53
		小展示場	336	小会議室	36		
		展示ホール	200	特別会議室	42		
		計	3,201	計	183		
山梨県立産業 展示交流館	9,945	展示場	4,860	大会議室	212	5,165 ㎡	1.93
				小会議室	93		
		計	4,860	計	305		
福井県 産業振興施設	27,088	イベントホール	8,000	特別室	80	8,854 ㎡	3.06
		小ホール	390	研修室	244		
		計	8,390	計	464		
岡山県 総合展示場	15,449	大展示場	3,797	国際会議場	380	8,839 ㎡	1.75
		中展示場	2,571	バンケット	190		
		小展示場	1,415	中会議室	216		
		計	7,783	計	1,056		
広島県立 ふくやま 産業交流館	11,341	大展示室	4,476	大会議室	120	5,563 ㎡	2.04
		小展示室	498	小会議室	148		
				研修室	321		
		計	4,974	計	589		

イ) 概算建設工事費の算定

他都市類似施設の延床面積及び単位面積当たり建設費の事例値を用い算出する。

下表で整理した他都市類似施設をみると、㎡当たり建設費は概ね 30 万円/㎡～60 万円/㎡程度と幅があるが、バラツキを考慮し、計画施設では概ね 40 万円/㎡～50 万円/㎡と推計する。

建設費 ㎡あたり：40～50 万円×延床面積：12,500 ㎡＝50～60 億円

＜他都市のコンベンション・展示施設の建設費事例＞

施設名	建築時期	延床面積 (㎡)	建設費 (百万円)	㎡当たり建設費 (万円)
栃木県立宇都宮産業展示館	S63.9	8,548	3,600	42.1
山梨県立産業展示交流館	H7.7	9,945	5,530	55.6
福井県産業振興施設	H7.3	27,088	16,653	61.5
岡山県総合展示場	H3	15,449	7,338	47.5
広島県立ふくやま産業交流館	H12.4	11,341	3,767	33.2

③ 周辺整備費

文化・コンベンションエリアには、「文化・コンベンション施設」、「コンベンション・展示施設」の他に、周辺整備として「立体駐車場」、「歩行者通路」等の整備が想定されている。

ア) 延床面積等の設定

i 立体駐車場

駐車場については、4,000人規模のイベントに対応できる施設整備を基本的な考え方として、整備台数を700台とする（H18 播磨都市圏PTでの都心・中心市街地自動車分担率43%、1台あたり平均乗車人員2.5人/台より算出）。

駐車場の形式については、用地の効率的利用と経済性を勘案し、自走式立体駐車場とする。自走式立体駐車場では1台あたり必要面積は35㎡/台が標準であるため、立体駐車場の延床面積は、24,500㎡となる。

$$700 \text{ 台} \times 35 \text{ ㎡/台} = 24,500 \text{ ㎡}$$

ii 歩行者通路

歩行者通路は「施設配置イメージ」で示したルートに、デッキ構造で整備することを想定する。幅員6mとの前提で、通路延長を100mと想定して算出すると、整備面積は600㎡となる。

$$\text{延長：} 100\text{m} \times \text{幅員：} 6\text{m} = 600 \text{ ㎡}$$

イ) 概算建設工事費の算定

i 立体駐車場

自走式立体駐車場の㎡あたり建設費は7万円/㎡程度であることから、概算建設工事費を以下のように推計する。

$$\text{建設費} \quad \text{㎡あたり：} 7 \text{ 万円} \times \text{延床面積：} 24,500 \text{ ㎡} = 17 \text{ 億円}$$

ii 歩行者通路

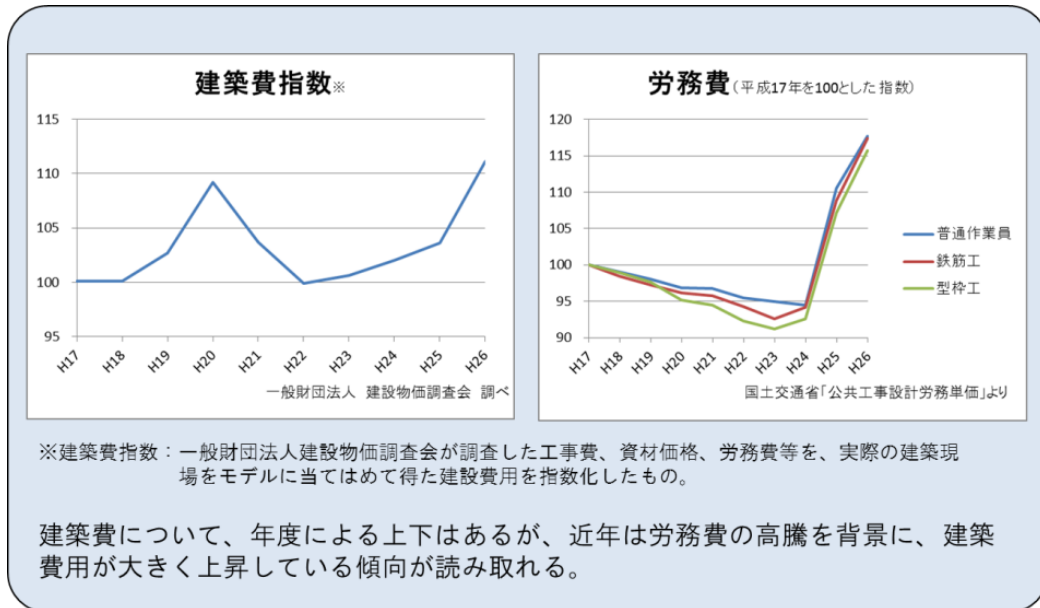
歩行者デッキの㎡あたり建設費を50万円/㎡程度とし、概算建設工事費を以下のように推計する。

$$\text{建設費} \quad \text{㎡あたり：} 50 \text{ 万円} \times \text{整備面積：} 600 \text{ ㎡} = 3 \text{ 億円}$$

iii 周辺整備費

$$\text{建設費} \quad \text{立体駐車場：} 17 \text{ 億円} + \text{歩行者通路：} 3 \text{ 億円} = 20 \text{ 億円}$$

【参考】建設費の上昇



④ 総建設工事費

前記各施設の概算建設工事費を基本に、施設を併設（一部共有化）出来ることや、効率的な事業手法を検討することによる効果を考慮し、周辺整備費（駐車場、デッキ）も含めた総建設工事費を算出する。

	文化・交流施設	コンベンション・展示施設	周辺整備	併設等効果	合計
総建設工事費 (億円)	90~120	50~60	20	▲20	140~180

※併設等効果の金額は、総建設工事費の1割程度を想定

⑤ 財源の確保

財源については、21世紀都市創造基金や有利な起債を活用するとともに、国からの補助金の確保にも努めるものとする。また、スクラップ&ビルドに伴い発生する施設跡地の売却益等についても活用を検討する。

【参考】 有利な起債とは

（例）合併特例債

市町村の合併に伴い特に必要となる事業について、合併年度とこれに続く10カ年度（平成18年度～平成27年度）に限り、地方財政法第5条各号に規定する経費に該当しないものにも充てることができる（充当率95%）ものであり、その元利償還金の70%について後年度において普通交付税の基準財政需要額に算入されるという地方債である。この合併特例債は、地方単独事業のみならず、国庫補助事業にかかる地方負担額（いわゆる補助裏）にも充てることができる。

なお、平成24年6月の「東日本大震災による被害を受けた合併市町村に係る地方債の特例に関する法律の一部を改正する法律」の施行により、発行期限が5年間延長された。

(2) 概算運営事業費

運営事業費については、複数の施設を一箇所に集約するメリットを活かし、それぞれの施設を有機的に連携活用することにより運用事業費の削減を図るとともに、市の直営、指定管理者による運営、民間資金の活用による運営や施設への民間機能の誘致等、各運営手法のメリット・デメリットを総合的に判断しながら検討を行うことにより、効率的、効果的な運営を実現する。概算運営事業費の算定については、現施設の実績や他都市事例等を参考に推計する。

① 文化・交流施設

文化・交流施設における運営事業費については、文化振興に係る経費を指定管理料に含める、若しくは別途事業料補助等を行うなど、市により事情が異なることから、支出については、管理経費のみでの推計とする。

(百万円/年)

		現施設			新施設※ ₃
		文化センター	音楽演劇練習場	計	
収入	指定管理料	119 (166)	12 (15)	131 (181)	250
	利用料金収入	47 (0)	3 (0)	50 (0) ※ ₁	60※ ₂
	自主事業収入	—	—	—	—
	小計	166	15	181	310
支出	人件費	49	6	55	95
	事業費	—	—	—	—
	事務費	3	1	4	7
	管理費	109	11	120	208
	小計	161	18	179	310
収支		5	▲3	2	0
実質市負担額		119	12	131	250

※₁ 現施設は、利用料金制度を採っていない。()内は利用料金制度を採用しない場合

※₂ 支出総額の20%を設定

※₃ 新施設の支出額は、現施設の支出額計に、現施設と新施設の延床面積の比を乗じて算出(延べ床面積の比:新施設 20,000 m²/現施設 11,582 m²=1.73)

② コンベンション・展示施設

コンベンション・展示施設の運営事業費は、他都市の収入額(小計)と支出額(小計)を、延床面積で除したm²当たりの単価(百万円/m²)の平均に、コンベンション・展示施設で想定している延床面積である12,500 m²を乗じて算出する。

＜他都市のコンベンション・展示施設の収支の事例＞

(百万円/年)

施設名	栃木県立宇都宮産業展示館	山梨県立産業展示交流館	福井県産業振興施設	岡山県総合展示場	広島県立ふくやま産業交流館	m ² 当たり単価(平均)
設置主体	栃木県	山梨県	福井県	岡山県	広島県	
所在地	栃木県宇都宮市	山梨県甲府市	福井県越前市	岡山県岡山市	広島県福山市	
開設	S63. 8	H7.7.	H7.7.	H3.5	H12.4	
延床面積(m ²)	8,548	9,945	27,088	15,449	11,341	
管理運営	指定管理	指定管理	指定管理	指定管理	指定管理	
指定管理者	大高商事グループ	公益財団法人やまなし産業支援機構	一般財団法人福井県産業会館	コンベックス岡山コンソーシアム	株式会社オオケン	
収支年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 25 年度	平成 25 年度	
収入額	指定管理料		51			
	利用料金収入	157	101	133	366	105
	事業収入	7	8		99	
	その他	4		14	54	1
	小計 (m ² 当たり単価)	168 (0.020)	109 (0.011)	198(147) (0.005)	519 (0.034)	106 (0.009)
支出額	人件費	22	31	38	42	21
	管理運営費	90	67	118	223	70
	事業費	7		9	110	2
	その他	12				7
	小計 (m ² 当たり単価)	131 (0.015)	98 (0.010)	165 (0.006)	375 (0.024)	100 (0.009)
納付金	23	11		118	4	
収支差額	14	0	33	26	2	
実質市負担額	▲23	▲11	51	▲118	▲4	

※岡山県総合展示場は、他都市に比して突出して収支が良いため、「m²当たり単価(平均)」の算出から除いた。

※指定管理料を収入している1施設については、指定管理料を差し引いた実質収入で算出した。

コンベンション・展示施設の運営事業費

収入：延床面積 12,500 m² × m²当たり単価 0.0113 百万円 = 141 百万円/年

支出：延床面積 12,500 m² × m²当たり単価 0.0100 百万円 = 125 百万円/年

収支：141 百万円/年 - 125 百万円/年 = 16 百万円/年

③ 総運営事業費

総運営事業費については、上記各施設の概算運営事業費を基本に、施設を併設（一部共有化）することによる効果を考慮し推計する。

(百万円/年)

		文化・交流施設	コンベンション ・展示施設	併設等による 効果	合計
収入	指定管理料	250	—	—	250
	利用料金収入	60	141	—	201
	自主事業収入	—	—	—	—
	小計	310	141	—	451
支出	人件費	95	29	▲12	112
	事業費	—	4	—	4
	事務費	7	92	▲31	276
	管理費	208			
	小計	310	125	▲43	392
収支		0	16	43	59
実質市負担額		250	▲16	▲43	191

※併設等による経費の削減は、人件費、事務費、管理費の1割を見込んでいる。

※コンベンション・展示施設における人件費と事務費・管理費の比率は、他都市事例より算出した。

コンベンション・展示施設について、他都市の事例は県営施設であるが、播磨圏域の人口規模や、製造業を中心とした産業の集積状況を踏まえると、本市においても、他都市の事例同様に収支を均衡させることが可能と考える。さらなる経営努力により、納付金等が発生した場合には、文化交流事業への繰入れも検討する。

さらに、駐車場収入やネーミングライツ等の広告事業収入、物販店、自動販売機、レストラン、カフェ等（ロードサイドの用地の有効活用含む）、利用者の利便性が向上する収益事業（自主事業）により、収益の改善を図ることも検討する。

6 管理運営の基本方針

文化・コンベンションエリアにおける管理運営の基本方針は以下の通りとする。

(1) 本市における MICE の取組みを強化する事業展開

文化センターの代替機能として整備される文化・交流施設と新たに整備するコンベンション・展示施設からなる本施設は、姫路における MICE 振興の拠点としての役割を担い、市内のホール・展示施設との連携、役割分担を図りながら、積極的なマネジメント活動を展開し、学会や展示会、公演を誘致することで国内外の人々が集う交流の場となるよう能動的な事業展開を目指すものとする。

(2) 市民の文化創造・育成、発信に寄与する事業展開

文化・交流施設の運営については、自主事業にも注力し、外部の専門家やプロデューサーへの委嘱、文化創造を牽引し支援する体制づくりにより、市民の文化芸術の創造・育成及び本市からの情報発信ができるよう充実させながら、MICE 等に対応した貸館事業も展開する。

(3) 気軽に利用できる市民に開かれた施設運営

公演や研究会などのイベント開催時以外においても市民が気軽に利用できるよう、会議施設やリハーサル室、練習室などを開放することで、市民の創造的な活動を支援する地域に開かれた施設運営を目指す。

(4) 多様なニーズに対応した市民主体の施設運営

地域の人々に親しまれる施設を維持するため、日々変化し続ける利用者ニーズを汲み取る定期的な利用者アンケートの実施や施設運営へのボランティア参加等、市民が主体となって積極的に参加することを基本とした施設運営を図る。

(5) 環境や安全・安心に配慮した施設の維持

省 CO₂、省エネルギーに配慮した運用を図るとともに、廃棄物の発生を抑制し、環境に配慮した施設運営に努める。

また、BCP 計画の策定・周知徹底、定期的な訓練の実施など、防災、減災対策に配慮し、快適で安全安心な公共施設の維持を図る。さらに、ライフサイクルコストの低減に配慮した施設の導入を検討する。

(6) サービスの向上と効率化を目指した管理運営体制の構築

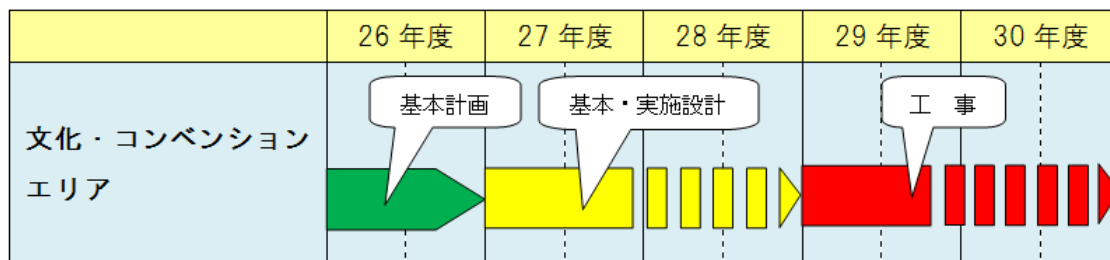
複数の施設を一箇所に集約するメリットを活かし、それぞれの施設を有機的に連携活用することで、施設全体として、効率的な計画、管理、運営を実現する。機能の異なる複数施設の一体的な運用の実現を目指して、運営や管理全般の仕組みを検討する。

また、施設運営のあり方として、市の直営、指定管理者による運営、民間資金の活用による運営や施設への民間機能の誘致などが考えられるが、各運営手法のメリット・デメリットを総合的に判断しながら検討を行うことにより、新施設にふさわしい最適な管理運営体制を構築する。

7 スケジュール

文化・コンベンションエリアの整備スケジュールは以下の通りであり、平成27年度から設計、建設工事を行い、平成31年度の供用開始を目指す。

＜文化・コンベンションエリアの整備スケジュール＞



※上記のスケジュールについては、今後、施設の内容、事業手法やスキームの検討状況、関係機関との協議等により、変更となることがある。

8 参考

(1) 望ましい施設シート及びシーズ・ニーズに関する参考資料

- ① 文化・交流施設（文化センター） P.42
 - A) 望ましい施設シート（文化・交流施設（文化センター））
 - B) シーズ・ニーズに関する参考資料（文化・交流施設（文化センター））

- ② 文化・交流施設（音楽演劇練習場） P.50
 - A) 望ましい施設シート（文化・交流施設（音楽演劇練習場））
 - B) シーズ・ニーズに関する参考資料（文化・交流施設（音楽演劇練習場））

- ③ コンベンション・展示施設（展示（多用途）施設） P.54
 - A) 望ましい施設シート（コンベンション・展示施設（展示（多用途）施設））
 - B) シーズ・ニーズに関する参考資料
（コンベンション・展示施設（展示（多用途）施設））

- ④ コンベンション・展示施設（会議施設） P.62
 - A) 望ましい施設シート（コンベンション・展示施設（会議施設））
 - B) シーズ・ニーズに関する参考資料（コンベンション・展示施設（会議施設））

(2) 策定関連資料

- ① 策定体制図 P.68

- ② イベントゾーンの検討経緯 P.68

①-A) 望ましい施設シート (文化・交流施設 (文化センター))

担当部局	市民局市民参画部文化交流課		
懇話会での方向性	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設については、市内にある類似施設も含めた利用実態、現有施設機能の限界・問題点、今後の本市の文化政策の展開や方向等をもとに、専門家も含めて様々な角度から検討を行い、その規模や構造、備えるべき施設、設備等について審議を進める。 コンベンションホールと文化施設については、各々に必要な機能を十分検討した上で、役割分担、建設位置、建築様式などの審議を進める。 		
懇話会での個別意見	<ul style="list-style-type: none"> 多目的ホールではなく、劇場・音楽堂などの整備が主流、箱物ではなく文化政策を実現する場の創造が必要。 文化施設とコンベンション施設は、建物と運営を分離すべき。 外部からの公演と市民利用の二本立てで考えるべき。 音楽と演劇は両立できない。 文化ホールが、コンベンションの主会場としての機能も兼ねるのは難しいのではないかと。 ハードだけでなく、ソフトウェア、ヒューマンウェアも担保することが大事である。 施設の整備に伴う、市内既存施設との役割分担、有効活用を考える必要がある。 文化振興ビジョン等で、文化施策の方向性を示す必要性がある。 		
政策 (上位計画での位置づけ等)	<p>文化芸術振興基本法 (平成 13 年) 第 4 条他 地方公共団体は、文化芸術の振興に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。</p> <p>劇場、音楽堂等の活性化に関する法律 (平成 24 年) 第 7 条他 地方公共団体は、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び当該地方公共団体の区域内の劇場、音楽堂等を積極的に活用しつつ実施する役割を果たすよう努めるものとする。</p> <p>姫路市総合計画 (基本目標 2、政策 4) 文化センター、姫路キャスパホール、パルナスホールなどの施設については、市民が主体的な表現活動を行うことができる交流拠点</p> <p>姫路市文化振興ビジョン (案)</p>		
現有施設	施設の概要	主な施設	文化センター、姫路キャスパホール、パルナスホール、姫路市民プラザ・アートホール
		機能	ホール機能、リハーサル機能、会議機能、飲食機能
		規模	文化センター：大ホール 1,657 席 (立見 300 席)、小ホール 493 席 (立見 150 席)、展示室 1 室、リハーサル室、食堂他 姫路キャスパホール (邦楽対応)：331 席、楽屋 6 席 パルナスホール (クラシック専用)：804 席、練習室 2 室他 姫路市民プラザ・アートホール：120 席
		管理運営	文化センター 指定管理者：公益財団法人姫路市文化国際交流財団、選定方法：非公募、指定管理料：1 億 6,600 万円 (平成 25 年度) 姫路キャスパホール 指定管理者：公益財団法人姫路市文化国際交流財団、選定方法：公募、指定管理料：4,630 万円 パルナスホール 管理委託 (委託先：公益財団法人姫路市文化国際交流財団) 姫路市民プラザ・アートホール 指定管理者：イーグレひめじ管理株式会社、選定方法：公募、指定管理料：3,222 万円
		使用例	音楽、大会・式典、映画、演劇、講演・講座
	問題点	施設及び舞台設備の老朽化、バリアフリー未対応 (文化センター)	
シーズ	シーズ 1) 播磨の連携中枢都市であるため、周辺市町からの利用、集客がある。 シーズ 2) 新幹線の駅から徒歩圏であり、広域の集客が見込める。 シーズ 3) 市民の文化意識が高く、文化団体の活動も活発である。 シーズ 4) 既存施設の稼働率が高く、十分な需要が見込める。 シーズ 5) 開催機会を逃している催しがあり、潜在的な需要が見込める。		

	ニーズ	<p>ニーズ1) 各種団体から多様な意見、要望があり、期待が高い。 ニーズ2) 現在の文化センターは老朽化しており、施設の使い勝手が悪く、時代のニーズにあっていない。 ニーズ3) 他都市との比較や市内施設との役割分担から、1,800~2,000 席程度の施設が必要。 ニーズ4) 市民、広域の来場者にとって魅力があり、利用しやすい施設とするには、駅から近く、商業エリアに近いことが望ましい。 ニーズ5) 連携中枢都市としての機能を高めるため、播磨圏域の文化振興を牽引する機能の充実が必要。 ニーズ6) 著名アーティストの公演を開催するためには、採算ラインである2,000 席程度の、質の高い音楽ホールが必要。 ニーズ7) ル・ポン国際音楽祭の主会場となる質の高い音楽ホールが必要。 ニーズ8) 現文化センターで行っている多様な催しの継続が不可欠。</p>		
新規施設	施設の概要	設置目的	市民が主体的な表現活動を行うことができる文化の交流拠点であるとともに大規模集客施設として、多目的な機能を担う。	
		機能	ホール及びリハーサル、練習 理由：市の文化交流の中心施設として、ホール機能はもとより、専門家や利用者から評判の良い現施設と同規模のリハーサル室、老朽化が著しい音楽演劇練習場の機能をより充実させたくて併設し、文化の創造活動の場として整備したい。	
		規模	大ホール 1,800~2,000 席程度 中ホール 600~800 席程度 小ホール 100~200 席程度 リハーサル室 練習室 10 室 理由 大ホール(1,800~2,000 席程度)：吹奏楽の県大会、著名アーティストの公演、市行事(成人式)など大規模な集客が見込まれる催しに対応するため。(音響も使用目的により可変) 中ホール (600~800 席程度)：演劇、民謡、落語会、合唱団の演奏会など幅広いジャンルの催しに対応することが可能であるため。(音響も使用目的により可変) 小ホール (100~200 席程度)：劇団の小公演やバンドの発表会など小規模な市民の発表の場として活用するため。	
		類似施設	まつもと市民芸術館	
		管理運営	民間活力を活用(指定管理者制度の導入を検討、公益財団法人の活用を検討)	
		目指すべき利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質の高い音楽の演奏の場(ル・ポン国際音楽祭の主会場) ・ 著名アーティストの公演 ・ あらゆるジャンルの市民活動の発表の場 ・ 心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現等に寄与する(劇場法)ための、人と人との絆を築く自主事業の実施 	
		期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホールの規模や質等の問題で開催することができなかった催しの開催が可能になる。交通の利便性が向上する。 ・ このことにより、市民の文化活動への参加機会が増大し、市民文化の向上を図ることができる。 ・ 広域的な集客による姫路のイメージ向上につながる。 ・ 施設の集約化による管理、運営の効率化と管理運営費の削減を図ることができる。 ・ キャスバホール、パルナソスホールとともに一体的に管理運営し、市の施策に沿った事業を実施する。 	
重視する視点からの評価 ※重視する視点は、「イベントゾーン整備の基本方針」より	視点	評価	評価の観点	課題
	整備コンセプト	◎	西播磨地域の文化の中心施設	コンベンション施設との共存
	都市戦略(MICE)	○	コンベンションのメインホール(空き状況に応じ)	文化事業との共存
	コンパクトシティ	◎	郊外から都心部への移転	跡地利用
	中心市街地活性化	◎	集客による活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回遊性の創出 ・ 周辺施設との連携
	ファシリティマネジメント	◎	スクラップ&ビルド	効率的な管理、運営

①-B) シーズ・ニーズに関する参考資料（文化・交流施設（文化センター））

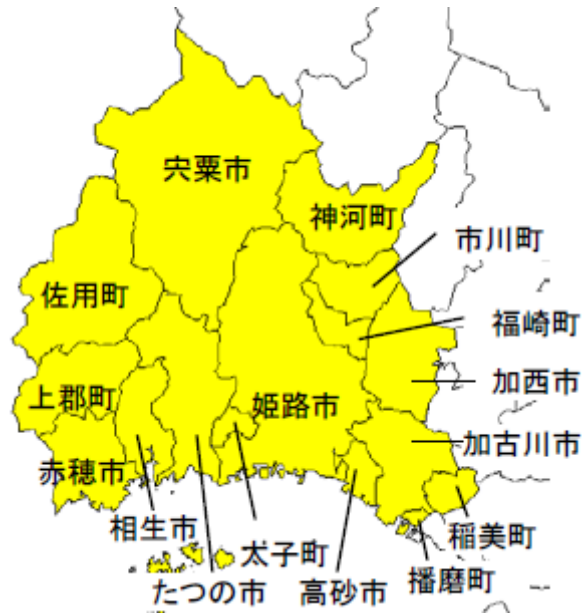
シーズ1 播磨の連携中枢都市であるため、周辺市町からの利用、集客がある

i 周辺市町の文化・交流施設

市町名	人口 (H22 国調)	施設名	最大収容 (人)	併設施設
加古川市	266,937	加古川市民会館	1,536	・会議室
高砂市	93,901	高砂市文化会館（じょうとんぼホール）	1,072	・会議室、和室、展示室
加西市	47,993	加西市市民会館	1,000	・小ホール（300 席） ・会議室、展示室
相生市	31,158	相生市民会館	505	・中ホール（300 席） ・会議室、和室等
赤穂市	50,523	赤穂市文化会館 /ハーモニーホール	1,168	・小ホール（384 席） ・展示室、会議室、レストラン
宍粟市	40,938	山崎文化会館 /サンホール山崎	666	・会議室、研修室、和室
たつの市	80,518	市総合文化会館 /アクアホール	500	・会議室、ギャラリー
		市総合文化会館 /赤とんぼホール	1,100	・中ホール（342 席） ・会議室、ギャラリー
揖保郡太子町	33,438	町文化会館 /あすかホール	800	・中ホール（300 席） ・会議室、研修室、和室
赤穂郡上郡町	16,636	生涯学習センター （旧中央公民館） /大ホール	414	・中ホール ・研修室、会議室、和室、調理室、図書室
佐用郡佐用町	19,265	スピカホール	200	・会議室
		上月文化会館	268	・研修室、図書室

☞ 周辺市町の施設は、収容人数が最大でも 1,500 人程度であり、大規模なイベント等に対応していない。

ii 連携中枢都市（モデル事業参加市町）



☞ 圏域人口は、約 133 万人である。

iii 交通結節機能



☞ 姫路駅を始発とする鉄道（播但線、姫新線、山陽電鉄）やバス（市外行き）の路線が多数ある。

シリーズ2 新幹線の駅から徒歩圏であり、広域の集客が見込める

新幹線利用による主要都市までの所要時間

	福岡	広島	岡山	大阪	名古屋	東京
新幹線駅	博多	広島	岡山	新大阪	名古屋	東京
所要時間	2:05	0:57	0:29	0:29	1:23	3:08
姫路駅へ午前10時に到着するための出発時刻	7:29	8:37	9:29	9:29	8:35	6:50

☞ イベントゾーンは姫路駅から近く、徒歩で10分程度の距離にある。また、広島から名古屋までの地域では、朝8時までに新幹線に乗車すれば、10時までに姫路に到着できる。

シリーズ3 市民の文化意識が高く、文化団体の活動も活発である

表 既存施設におけるイベント開催実績

施設名	開催実績
文化センター	姫路市吹奏楽団定期演奏会、成人式、新卒予定者求人説明会
姫路キャスパホール	ピアノ発表会、市民教養講座、姫路シネマクラブ例会
パルナソスホール	高校吹奏楽部定期演奏会、チェンバロ講座
姫路市民プラザ・アートホール	ピアノ発表会、ギター教室発表会、姫路こども劇場例会、寄席

☞ 既存施設において、多様なイベントが開催されている。

シリーズ4 既存施設の稼働率が高く、十分な需要が見込める

表 既存施設の運用実績（平成22年度）

		稼働率（%）	
		全国平均	
文化センター	大ホール	64	58.7（1,500人～1,999人）
	小ホール	64	50.2（500人～999人）
姫路キャスパホール		79	56.7（499人以下）
パルナソスホール		78	50.2（500人～999人）
姫路市民プラザ・アートホール		68	56.7（499人以下）

☞ 文化センター大ホールにおける平成22年度の稼働率が64%であるのに対し、同規模施設の全国平均は58.7%である。

シリーズ5 開催機会を逃している催しがあり、潜在的な需要が見込める

施設名	逃している催し
文化センター	ポップス系の有名アーティストコンサート
姫路キャスパホール	文楽や狂言など大がかりな舞台装置を要する伝統芸能
パルナソスホール	海外のオーケストラ及びN響等の国内有名団体の演奏会
姫路市民プラザ	小劇団の公演

ニーズ1 各種団体から多様な意見、要望があり、期待が高い

表 文化・交流施設に関する各種団体からの意見

文化・交流施設に求められる機能	団体名	規模についての意見・要望
大ホールと中ホール	日本民謡姫路連合会	・1000~1200人の規模の大ホール、中小ホールが理想。
	姫路市民劇場	・音楽ホールを主目的とする大ホール(1,500~1800席)、演劇公演を主目的とする中ホール(800~1,000席)の2つのホールが必要。
	姫路交響楽団	・使用目的によって数種類のホールがほしい。大ホールはシューボックス型で1,800席程度、中ホール500~600席を希望。
	姫路クラシック&モダンダンスグループ	・大ホールは座席2,000席程度必要だが、例えば1階1,200席、2階500席、3階300席位で客席が積層するようにし、舞台から遠くならないように。
	姫路オペラ学友協会	・2,000人の大ホール、1,000人の中ホールが必要。
	西播吹奏楽連盟	・関西大会規模の大会ができる2,000人程度のホール。
小ホール	姫路交響楽団	・小ホールはキャスパホールを兼ねるとよい。
	姫路オペラ学友協会	・400~500人の小ホールが必要。
	劇団プロデュースF	・キャスパホールよりも小規模のホール(100席程度の小劇場)があれば、ぜひ使用したい。

☞各種団体から施設の内容や規模について、多様な意見、要望がある。

ニーズ2 現在の文化センターは老朽化しており、施設の使い勝手が悪く、時代のニーズにあっていない

☞姫路市文化センターは、供用開始がS47年であり、他都市の施設と比較して、供用期間の長い施設となっている。

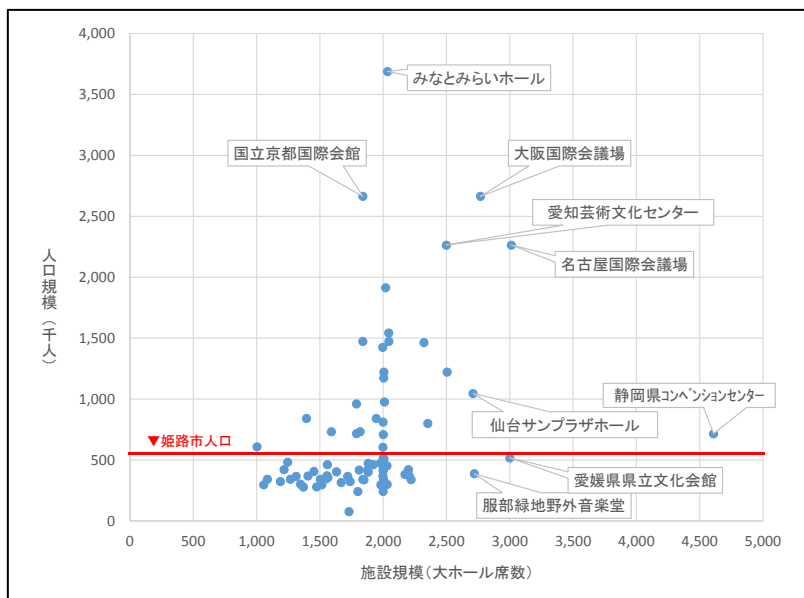
☞各種団体、芸能事務所より、施設の使い勝手について多様な要望がある。

市民活動団体からの要望	・経済効果を考え終演後に食事をするなどお金を落としてもらえる仕掛けづくり(導線、施設)が必要。
	・ロビー・ホワイエでの飲食スペース
	・音響面で現在の文化センターは、反響板と客席の間に開口部が1メートル以上あり、音が抜けてしまう構造になっているので、改善を望む。
	・バレエ、オペラ公演のためにオーケストラピットのスペースを考慮してほしい。(現在の文化センターは狭い)
	・舞台は現在の文化センター大ホールより間口、奥行き、高さをもう一回り大きくしてほしい。
	・障害者対応スペースや親子室の設置を希望
	・新幹線、在来線を通る時に、「ぜひ演奏したい」と思わせる外観を考慮してほしい。
	・大型の楽器を搬入しやすいような構造を希望 ・できるだけ大きなリハーサル室を望む
芸能事務所からの要望	・駅から遠い。徒歩10分ほどが理想。車でないといけないのは不便。公共交通を利用したアクセスがやや悪い。
	・今の文化センターでは楽屋の数が少ない。大型公演に対応できない。
	・車椅子席は絶対に必要。バリアフリー対策をしっかりとすべき。

ニーズ 3 他都市との比較や市内施設との役割分担から、1,800～2,000 席程度の施設が必要

施設名	都市区分 (都市圏)	都市圏人口 (万人)		供用 開始	ホール (席)		稼働率 (%)	運営形態
		母都市人口 (万人)			メイン	サブ		
姫路市文化センター	中核市 姫路市	74.8	S47 (1972)	1,657	493	62.0	財団 (市)	
		53.6						
鹿児島市民文化ホール	中核市 鹿児島市	73.9	S58 (1983)	1,990	952	61.2	財団 (市)	
		60.4						
長崎ブリックホール	中核市 長崎市	78.7	H17 (1995)	2,002	542	75.7	直営 (~H19)	
		43.9						
松山市民会館	中核市 松山市	64.3	S40 (1965)	1,999	—	—	財団 (市)	
		51.6						
ふくやま芸術文化ホール	中核市 福山市	71.5	H4 (1992)	2,003	—	—	財団 (市)	
		46.1						
岡山シンフォニーホール	政令市 岡山市	150.3	H3 (1991)	2,001	—	74.4	財団 (県)	
		69.6						
大津市民会館	中核市 大津市	京都市に包含	S50 (1975)	1,300	—	—	民間 (市)	
		32.3						
長良川国際会議場	中核市 岐阜市	83.1	H7 (1995)	1,689	—	63.1	財団 (市)	
		41.8						
アクティシティ浜松	政令市 浜松市	113.9	H6 (1994)	2,336	1,030	81.4	財団 (市)	
		81.6						
静岡市清水文化会館 (静岡駅東地区文化施設)	政令市 静岡市	98.6	H24 (2012)	1,513	292	—	財団 (市)	
		70.1						
静岡市民文化会館	政令市 静岡市	98.6	H6 (1994)	1,968	1,170	91.6	財団 (市)	
		70.1						
新潟県民会館	政令市 新潟市	115.2	S42 (1967)	1,730	300	58.0	財団 (県)	
		81.3						

※都市圏人口及び母都市人口は平成 17 年度ののもの



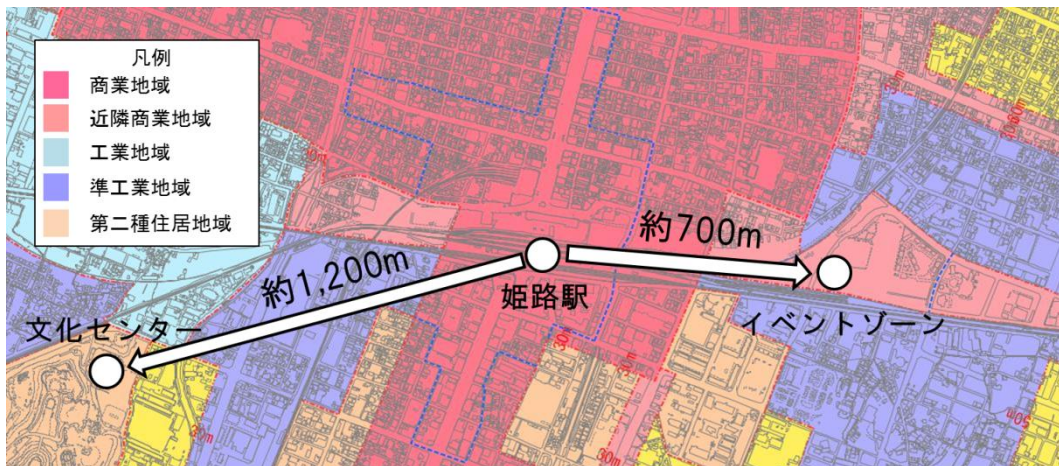
＜市内施設の規模＞

		0	500	1000	1500	2000	(人)	
姫路市民会館	大ホール	講演会、演劇、コンサート					800	
	中ホール	200						
キャスパホール		講演会、コンサート					331	
イーグレひめじ	あいめっせホール	講演会、コンサート					320	
パルナスホール		コンサート					804	
姫路市勤労市民会館	大集会場	300						
姫路商工会議所	大ホール	500						
	501ホール	180						
フォーラスホール		150						
イベントゾーン	メインホール						1800~2000	

※収容人数 150 人以下のホール、会議室は含まない。

☞文化センターをのぞけば、市内施設の規模は、市民会館とパルナスホールの 800 席が最大である。

ニーズ 4 市民、広域の来場者にとって魅力があり、利用しやすい施設とするには、駅から近く、商業エリアに近いことが望ましい



☞利用客の利便性の面から、また、中心市街地活性化の面から、施設は商業地域に近いことが望ましいが、既存の文化センターは離れた場所にある。

☞バスの便が 21 時頃で終わってしまうなど、公共交通の便が良くない。

②-A) 望ましい施設シート（文化・交流施設（音楽演劇練習場））

担当部局	市民局市民参画部文化交流課		
懇話会での方向性	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設については、市内にある類似施設も含めた利用実態、現有施設機能の限界・問題点、今後の本市の文化政策の展開や方向等をもとに、専門家も含めて様々な角度から検討を行い、その規模や構造、備えるべき施設、設備等について審議を進める。 		
懇話会での個別意見	<ul style="list-style-type: none"> 多目的ホールではなく、劇場・音楽堂などの整備が主流、箱物ではなく文化政策を実現する場の創造が必要。 外部からの公演と市民利用の二本立てで考えるべき。 ハードだけでなく、ソフトウェア、ヒューマンウェアも担保することが大事である。 施設整備に伴う、市内既存施設との役割分担、有効活用を考える必要がある。 文化振興ビジョン等で、文化施策の方向性を示す必要がある。 		
政策（上位計画での位置づけ等）	<p>文化芸術振興基本法（平成13年）第4条他 地方公共団体は、文化芸術の振興に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。</p> <p>劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（平成24年）第7条他 地方公共団体は、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び当該地方公共団体の区域内の劇場、音楽堂等を積極的に活用しつつ実施する役割を果たすよう努めるものとする。</p> <p>総合計画（基本目標2、政策4） 文化センター、姫路キャスパホール、パルナスホールなどの施設については、市民が主体的な表現活動を行うことができる交流拠点。</p> <p>姫路市文化振興ビジョン（案）</p>		
現有施設	施設の概要	主な施設	音楽演劇練習場
		機能	練習
		規模	練習室5室 160㎡1室、128㎡1室、39㎡1室、19㎡2室
		管理運営	指定管理者：姫路ビルメンテナンス協同組合 選定方法：公募 指定管理料：1,448万円（平成25年度）
		使用例	音楽、演劇
	問題点	<ul style="list-style-type: none"> 施設及び設備の老朽化 バリアフリー未対応 	
	シーズ	シーズ1）市民の文化意識が高く、文化団体の活動も活発である。（市民アンケート、文化団体アンケート） シーズ2）多様なジャンルでの利用がある。 シーズ3）文化活動支援に果たしている役割は大きい。	
ニーズ	ニーズ1）現施設が老朽化しており、新施設が必要。 ニーズ2）利便性の高い（交通の便がよく、商業エリアに近い）姫路駅周辺への移転。 ニーズ3）練習室の数の充実や長期的な利用等に対する要望がある。 ニーズ4）利用しやすい広さで、使用料が安い施設への要望が高い。 ニーズ5）道具等の搬入のため、十分な駐車場が必要である。		

新規施設	施設の概要	設置目的	市民が主体的な表現活動を行うことができる市民の交流拠点。	
		機能	練習 理由:老朽化が著しい音楽演劇練習場の機能をより充実させたい。市民文化の創造活動の場として整備したい。	
		規模	練習室 10 室 300㎡ 1室、100~200㎡ 3室、20~50㎡ 6室 理由:社交ダンスや交響楽の比較的大人数のグループから少人数の軽音楽グループの練習に対応し、にぎわいの創出を図ることができるため。	
		類似施設	・福岡市音楽・演劇練習場 パピオビールーム ・福岡市大橋音楽・演劇練習場 ゆめアール大橋	
		管理運営	民間活力を活用(指定管理者制度の導入を検討、公益財団法人の活用を検討)	
		目指すべき利用	・あらゆるジャンルの市民活動の場	
		期待される効果	・交通の利便性が向上し、市民が文化活動に参加する機会が増えることにより、市民交流が促進される。 ・施設の集約化により管理、運営の効率化と管理運営費の削減が図られる。 ・文化・交流施設(ホール)と併設することにより、ホールで催しが無い場合でもにぎわいを創出できる。	
重視する視点からの評価 ※重視する視点は、「イベントゾーン整備の基本方針」より	視点	評価	評価の観点	課題
	整備コンセプト	◎	・文化を通じた市民交流の場	・利用ジャンルの選択
	都市戦略(MICE)	△	・主に市民活動のための施設	・ホールとの連携
	中心市街地活性化	○	・集客による活性化	・利用しやすさ(料金、駐車場等)の検討
	コンパクトシティ	◎	・郊外から都心部への移転	・規模の検討
	ファシリティマネジメント	○	・スクラップ&ビルド	・民間施設との連携

②-B) シーズ・ニーズに関する参考資料（文化・交流施設（音楽演劇練習場））

シーズン1 市民の文化意識が高く、文化団体の活動も活発である

i 既存施設におけるイベント開催実績

施設名	開催実績
文化センター	姫路市吹奏楽団定期演奏会、成人式、新卒予定者求人説明会
姫路キャスパホール	ピアノ発表会、市民教養講座、姫路シネマクラブ例会
パルナソスホール	高校吹奏楽部定期演奏会、チェンバロ講座
姫路市民プラザ・アートホール	ピアノ発表会、ギター教室発表会、姫路こども劇場例会、寄席

☞ 既存施設において、多様なイベントが開催されている。

ii 既存施設の運用実績（平成22年度）

		稼働率（%）	
		全国平均	
文化センター	大ホール	64	58.7（1,500人～1,999人）
	小ホール	64	50.2（500人～999人）
姫路キャスパホール		79	56.7（499人以下）
パルナソスホール		78	50.2（500人～999人）
姫路市民プラザ・アートホール		68	56.7（499人以下）

☞ 各施設とも、稼働率が同規模施設の全国平均を上回っている。

シーズン2 多様なジャンルでの利用がある

表 姫路市音楽演劇練習場の概要

施設名	利用実績
姫路市音楽演劇練習場	軽音楽、社交ダンス、和太鼓、交響楽

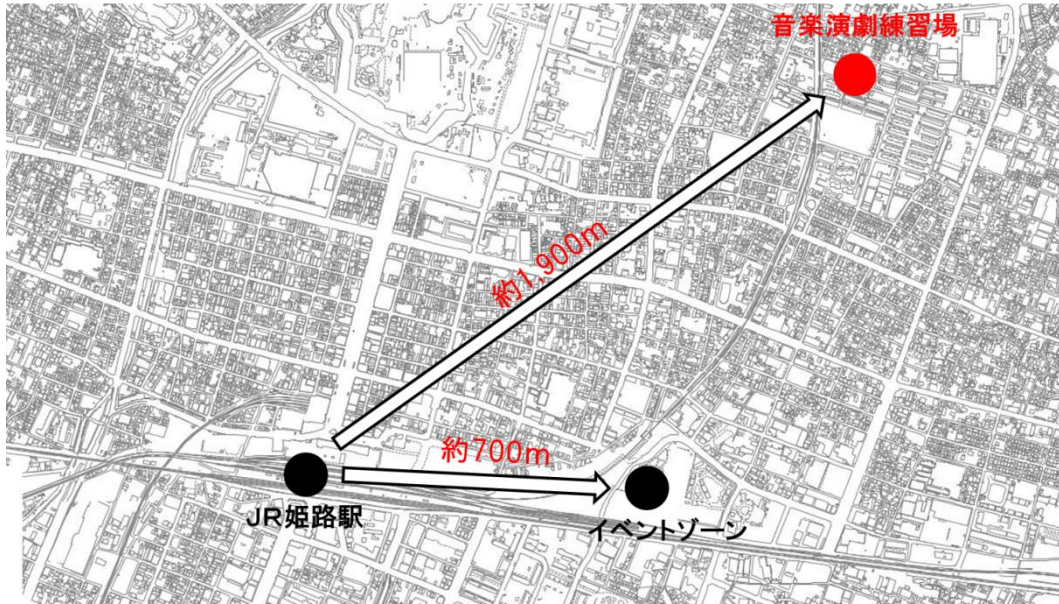
ニーズ1 現施設が老朽化しており、新施設が必要

表 姫路市音楽演劇練習場の概要

施設名	主要施設	供用開始
姫路市音楽演劇練習場	演劇練習場（159.32㎡）、第1音楽練習室（127.77㎡） 第2音楽練習室（18.90㎡）、第3音楽練習室（18.90㎡） 第4音楽練習室（38.59㎡）	S40 （1965）

☞ 音楽演劇練習場は、供用開始から約50年が経っている。

ニーズ 2 利便性の高い（交通の便がよく、商業エリアに近い）姫路駅周辺への移転



☞ 既存の音楽演劇練習場は、姫路駅やその周辺から離れた地域にあり、地理的に不便である。

ニーズ 3 練習室の数の充実や長期的な利用に対する要望がある

表 姫路市音楽演劇練習場の施設ごとの稼働率（平成 24 年度）

	演劇練習室	第 1 音楽練習室	第 2 音楽練習室	第 3 音楽練習室	第 4 音楽練習室
施設面積	159.32 m ²	127.77 m ²	18.90 m ²	18.90 m ²	38.59 m ²
稼働率	56.2%	55.2%	91.5%	83.8%	74.9%

出典：平成 24 年度 指定管理業務の結果評価

- ☞ 小規模な練習室を中心に稼働率が高い。
- ☞ 予約が集中する日には抽選となり、申し込みを断ることがある。

③-A) 望ましい施設シート (コンベンション・展示施設 (展示 (多用途) 施設))

担当部局	産業局商工部産業振興課、都市拠点整備本部姫路駅周辺整備室		
懇話会での方向性	<ul style="list-style-type: none"> 本市における MICE の過去の実績、今後の需要予測、大規模国際会議・見本市の誘致の可能性などについて分析を行い、今後の戦略的展開について十分検討を行う。 コンベンションホールの機能、備えるべき施設、規模などについては、民間の経済活動や展示機能の必要性にも留意しつつ、審議を進める。 コンベンションホールと文化施設については、各々に必要な機能を十分検討した上で、役割分担、建設位置、建築様式などの審議を進める。 		
懇話会での個別意見	<ul style="list-style-type: none"> 地元としてのニーズがあれば一定の規模は成立する。 現況は、本来用途ではないスポーツ施設等で行っており利便性に欠ける。 コンベンション施設は、MICE 等の政策的な観点から検討することが重要である。 MICE は、神戸市など県庁所在都市に比べて不利な点が多い。どのような MICE の誘致を目指すのか、戦略を立てた上で、機能や規模を考えなければならない。 姫路城、播磨科学公園都市、神戸のスーパーコンピューター等を考えると、産業や学術に特化したコンベンション、国際会議、見本市の需要は増えてくるのではないか。 		
政策 (上位計画での位置づけ等)	総合計画 (基本目標 2、政策 1・1、2、4) <ul style="list-style-type: none"> 国内外を視野に入れた企業立地の促進 創造的ものづくり力の強化 生涯にわたる雇用・就業対策の充実 		
現有施設	施設の概要	主な施設	文化センター (展示室)、姫路商工会議所 (1 階展示室)、姫路港旅客ターミナル (2 階部分)、姫路みなとドーム
		機能	展示機能
		規模	文化センター (展示室) : 500 m ² 姫路商工会議所 (展示室) : 377 m ² 姫路港旅客ターミナル : 1,110 m ² 姫路みなとドーム : 2,675 m ²
		管理運営	文化センター : 指定管理 ((公財) 姫路市文化国際交流財団) 姫路商工会議所 : 直営 姫路港旅客ターミナル : ひょうご埠頭株 (所有者は県) 姫路みなとドーム : 指定管理 (神姫バス株)
		使用例	展示、式典、催し物、スポーツ
		問題点	<ul style="list-style-type: none"> 市の中心部には 1,000 m² 未満の小規模な展示室しかない。 最大規模の姫路みなとドームはスポーツ以外の利用もできる多目的施設ではあるが、展示設備が不十分で、重量展示にも対応できない。 1,000 m² 超の 2 施設は市の中心部から離れた沿岸部に位置し、最寄り駅からも離れているため利用者にとって交通の便が悪い。
シーズ	シーズ 1) 製造品出荷額等が同規模の都市に比べて多く、製造業 (ものづくり) に強みがある。 シーズ 2) 播磨科学公園都市における先端科学技術や先端産業の集積。 シーズ 3) 兵庫県立大学やものづくりを支援する機関 (姫路ものづくり支援センター等) の立地とそれらを繋ぐネットワークが存在する。 シーズ 4) 中小企業団体 (はりま産学交流会) による産学連携・産産連携の取り組み。 シーズ 5) 播磨の連携中枢都市であるため、周辺市町からの集客が見込める。 シーズ 6) 新幹線の駅があるため、広域の集客が見込める。		
	ニーズ	ニーズ 1) 都心部 (姫路駅周辺) に大規模展示会が開催できる専用施設がない。 ニーズ 2) 企業による展示会の効果を高めるために展示会、商談会、セミナー等で一体利用 (同時開催) できることが望まれている。 ニーズ 3) イベント等で多用途に利用できる施設が望まれている。 ニーズ 4) 他都市との比較において、3,000~5,000 m ² 程度の施設が必要。	

新規施設	施設の概要	設置目的	<ul style="list-style-type: none"> 大・小展示商談会が開催できる規模及び機能をあわせ持つことで、広域的なネットワークの拡大、受注機会の創出、技術交流や情報交流、産学連携などによる新たなビジネスチャンスや共同開発等に繋げる場を提供すること。 ただし、神戸市や岡山市に大規模展示施設があり、本市の地理的状況等を考慮すると、展示場の民間需要や展示会の誘致には限界が有ることから、多用途な利用を想定する必要がある。 コンベンション時のイベントホールや大規模集会、スポーツ等にも利用 	
		機能	<ul style="list-style-type: none"> 展示機能（倉庫含む）、会議室 理由：規模（展示面積）が1,000㎡を超える展示機能を有する施設が市の中心部にないため。また、会議室で商談会を同時開催することで展示会の開催効果が高まるため。	
		規模	展示面積 3,000～5,000㎡（5,000㎡程度が望ましい） 理由：規模（展示面積）が1,000㎡を超える展示機能を有する施設が市の中心部にないため。 なお、展示場は可動式間仕切りにより1,000～1,500㎡程度の分割使用が可能な仕様が望まれる。 また、重量のある大型製品の展示やその搬出入のための車両の乗り入れを考慮した仕様とすることが必要（荷重5t/㎡、天井高13m以上、床面アスファルト又はコンクリートなど）。 （参考）展示面積：3,000㎡→約150小間（1ブース＝3m×3m）	
		類似施設	神戸国際展示場	
		管理運営	民間活力を活用（指定管理者制度の導入を検討）	
		目指すべき利用	<ul style="list-style-type: none"> 製品、学術展示や見本市 臨海地区に集積する企業等の会着、集会 国際団体、学会等が主催する総会、学術会議 大規模コンサート、企業説明会、スポーツ 	
		期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 展示会開催による広域的なネットワークの拡大、受注機会の創出、技術交流や情報交流の促進 先端技術等の情報発信などを通じて地域産業の発展に繋がる。 産業展示に限らず、イベント等、多用途に利用することにより、新たな需要が生まれる。 	
重視する視点からの評価 ※重視する視点は、「イベントゾーン整備の基本方針」より	視点	評価	評価の観点	課題
	整備コンセプト	○	・企業の製品・技術に関する情報交流	<ul style="list-style-type: none"> 展示場として必要な機能の検討（会議室等） 周辺施設との連携 実績や効果の把握が困難
	都市戦略(MICE)	◎	・本市にない大規模展示場	<ul style="list-style-type: none"> 展示会の開催はあまり期待できない 多額の建設費と管理運営費に見合う経済効果について検討する必要がある。
	中心市街地活性化	○	・賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> 展示会のみでの利用には限界がある 回遊性を創出する動線整備
	コンパクトシティ	◎	・都心部への立地	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設との役割分担 駅からの交通手段
	ファシリティマネジメント	◎	・採算性及び経済効果	<ul style="list-style-type: none"> 多額の建設費と管理運営費に見合う経済効果について検討する必要がある。 多用途な利用も視野に入れる必要がある。

③-B) シーズ・ニーズに関する参考資料

(コンベンション・展示施設 (展示 (多用途) 施設))

シーズン1 製造品出荷額等が同規模の都市に比べて多く、製造業（ものづくり）に強みがある

表 主要都市における製造品出荷額等の比較（平成24年度）

	人口（人）	製造品出荷額等〔単位：100万円〕	
			人口一人当たり
姫路市	533,832	2,028,135	3.80
鹿児島市	605,120	336,159	0.56
熊本市	725,005	372,418	0.51
福岡市	1,422,831	576,523	0.41
北九州市	974,691	2,003,119	2.06
広島市	1,164,654	2,198,738	1.89
福山市	465,654	1,737,797	3.73
倉敷市	476,444	4,143,963	8.70
岡山市	691,955	925,987	1.34
神戸市	1,512,109	2,866,785	1.90
大阪市	2,543,137	3,522,064	1.38
京都市	1,382,113	2,253,504	1.63
岐阜市	409,655	255,200	0.62
名古屋市	2,182,154	3,389,586	1.55
浜松市	791,710	2,085,286	2.63
静岡市	713,640	1,711,073	2.40
平均			1.83

※首都圏を除く東京～鹿児島間の、人口30万人以上で、独自の都市圏を形成しているといわれる都市を対象に抽出

※製造品出荷額等は平成24年工業統計調査結果による

☞本市の製造品出荷額等における人口一人当たりの換算額は380万円となっており、上記他都市の平均値である183万円を大きく上回っている。

シーズン2 播磨科学公園都市における先端科学技術や先端産業の集積

表 播磨科学公園都市の立地企業及び関連施設

立地企業	○住友電気工業(株) ○日本電機(株) ○(株)ダイセル ○凸版印刷(株) ○(株)イワサワ ○(株)HI ビジネスサポート ○(株)帝国電機製作所 ○ビーエイチエヌ(株) ○フジプレミアム(株) ○栗田工業(株) ○三木弘鋼材(株) ○ハマックス(株) ○(株)三日月運送 ○上月電装(株) ○日本エア・リキード(株) ○(株)平福電機製作所 ○オルガニックスピントロニクスジャパン(株) (清水電設工業(株)) ○(株)一宮電機 ○林一(株) ○川崎重工業(株)
関連施設	○SPring-8 ○SACLA ○ニュースバル ○兵庫県立大学理学部 ○先端科学技術支援センター

※平成26年3月現在 兵庫県企業庁のホームページより

☞播磨科学公園都市には、先端科学技術に関する研究施設やそれに関連した先端産業が集積している。

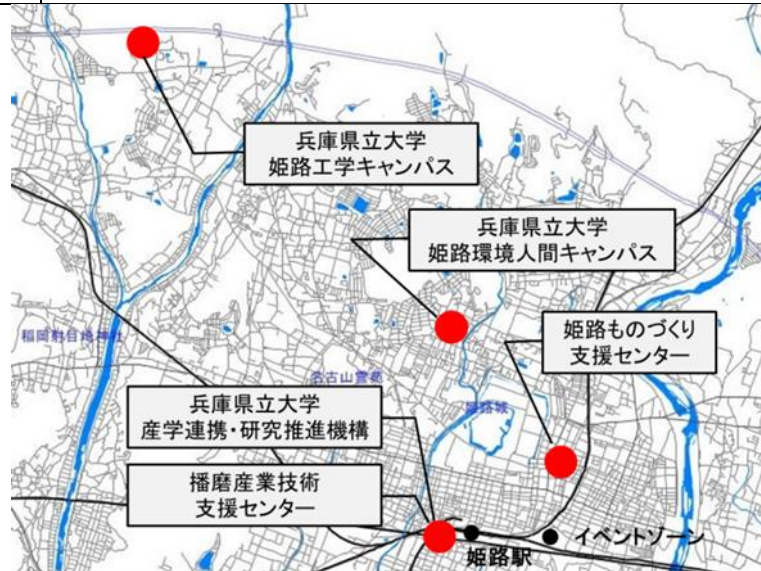
※SPring-8：世界最高性能の放射光を生み出すことができる大型放射光施設。物質材料やその加工に関連した科学技術、生物物質に関連したライフサイエンスや医療など、極めて広範な分野での応用が期待されている。国内外の産学官の研究者等に関わられた共同利用施設であり、課題申請が採択されれば、誰でも利用することができる。

- ※SACLA：日本初の X 線自由電子レーザー（XFEL）施設。XFEL は、波長が X 線領域のレーザーであり、物質を原子レベルの大きさで、かつ瞬時の動きを観察することができる画期的な光源として期待されている。
- ※ニュースバル：SPring-8 と同様に広範な分野での応用が期待される研究施設。SPring-8 よりも、波長がやや長い軟 X 線の発振を得意とする。
- ※先端科学技術支援センター：SPring-8 を利用する企業や県下中小企業、研究者等の先進的な研究開発を支援するための機能を備えたアカデミックな施設。会議施設や宿泊施設等からなる。

シーズ 3 兵庫県立大学やものづくりを支援する機関（姫路ものづくり支援センター等）の立地とそれらを繋ぐネットワークが存在する

表 姫路市に立地するものづくり支援機関と概要

兵庫県立大学	県下全域にキャンパスが広がっており、本市に工学部、環境人間学部等があるほか、理学部では SPring-8 など、最先端の研究施設と連携した教育を進めている。研究、教育だけではなく、産学連携、県内自治体との協力による地域連携等、様々な活動も展開している。
兵庫県立大学 産学連携・ 研究推進機構	兵庫県立大学の内部機構。兵庫県立大学と産業界を結び、研究協力及び学術交流を推進するとともに、大学の知的資産を地域社会に還元し、貢献することを目的としている。産業界との共同研究及び受託研究の企画・推進や産学連携のコーディネート等が、主な業務として挙げられる。 姫路工学キャンパス内に開設されたインキュベーションセンターでは、産業界との共同研究とともに、次世代産業の育成等を行っている。
姫路ものづくり 支援センター	地域産業の振興を目指して、姫路商工会議所と本市が共同で設置している。製品開発などの技術面にとどまらず、研究開発に対する助成金や申請手続きの紹介、販路開拓の支援など、産業界からの様々な相談にワンストップで対応している。
播磨産業技術 支援センター	播磨地域の企業の技術高度化や新産業の創出を積極的に推進するため、公益財団法人ひょうご科学技術協会が設置している。企業の新製品開発に対する資金助成や技術アドバイザー派遣による相談・指導などを行っている。平成 25 年 4 月から姫路商工会議所 2 階に移転し、姫路ものづくり支援センターとの連携を図っている。



シリーズ4 中小企業団体（はりま産学交流会）による産学連携・産産連携の取組み

表 はりま産学交流会の概要

はりま産学交流会	ものづくり企業を中心に約80社の会員企業が集まり、産学金官の連携により新たな事業創出を目指して、関西圏の6大学（兵庫県立大学、神戸大学、大阪府立大学、関西大学、近畿大学、鳥取大学）、県下の行政機関や支援組織との連携を図り、研究発表会や展示会など様々な活動を展開している。行政や大学との強いつながり、会員企業同士の相互支援によって、新製品開発や新規販路開拓に取り組んでいる。
----------	--

シリーズ5 播磨の連携中枢都市であるため、周辺市町からの集客が見込める

i 連携中枢都市（モデル事業参加市町）



☞ 圏域人口は、約133万人である。

ii 交通結節機能



☞ 姫路駅を始発とする鉄道（播但線、姫新線、山陽電鉄）やバス（市外行き）の路線が多数ある。

シーズ6 新幹線の駅があるため、広域の集客が見込める

新幹線利用による主要都市までの所要時間

	福岡	広島	岡山	大阪	名古屋	東京
新幹線駅	博多	広島	岡山	新大阪	名古屋	東京
姫路駅までの所要時間	2:05	0:57	0:29	0:29	1:23	3:08
姫路駅へ午前10時に到着するための出発時刻	7:29	8:37	9:29	9:29	8:35	6:50

☞ イベントゾーンは姫路駅から近く、徒歩で10分程度の距離にある。また、広島から名古屋までの地域では、朝8時までに新幹線に乗車すれば、10時までに姫路に到着できる。

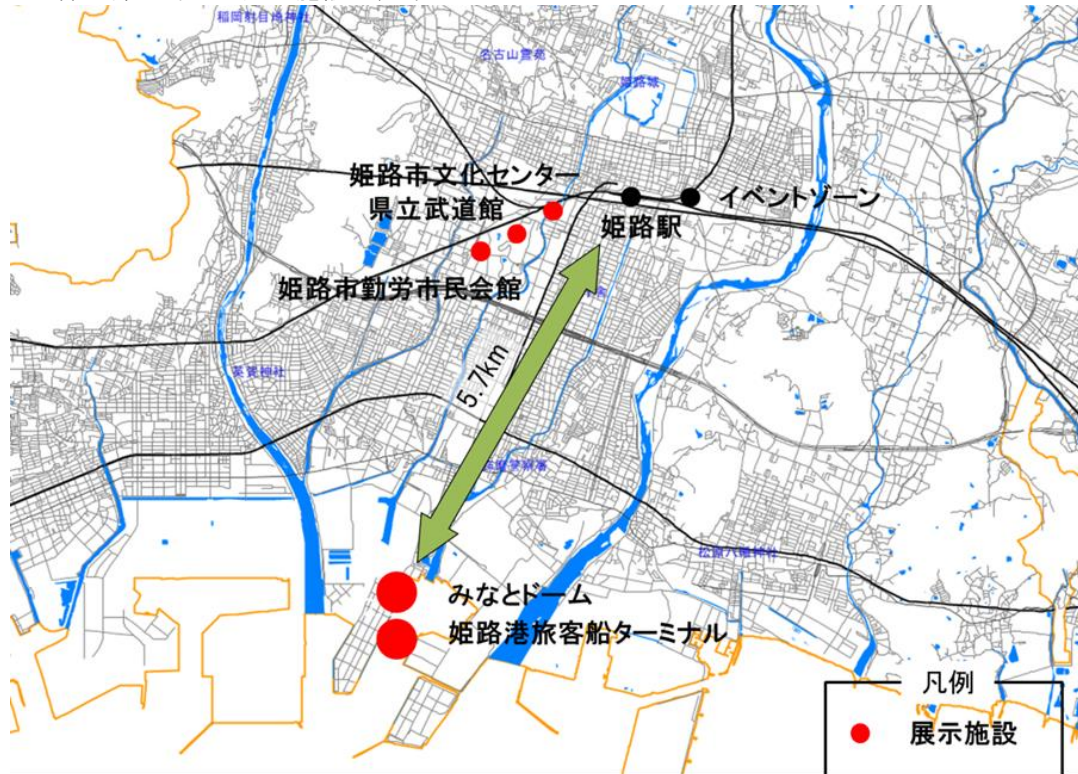
シーズ1 都心部（姫路駅周辺）に大規模展示会が開催できる専用施設がない

i 市内の展示施設（展示面積 500 m²以上）

施設	面積 (m ²)	用途	
みなとドーム	2,675	スポーツ主体	
県立武道館	第一道場	1,156	スポーツ主体
	第二道場	2,312	スポーツ主体
姫路港旅客船ターミナル	展示会場	1,110	
姫路市勤労市民会館	展示室	510	
姫路市文化センター	展示場	500	

☞ 大規模な展示施設は、スポーツ主体の施設である。

ii 都心部以外での展示施設の分布



☞ みなとドーム及び姫路港旅客船ターミナルは、臨海部に立地している。

ニーズ 2

企業による展示会の効果を高めるために展示会、商談会、セミナー等で一体利用（同時開催）できることが望まれている

表 市内の展示施設と併設する会議室（展示施設面積 500 m²以上）

展示施設	面積 (m ²)	併設の会議室
みなとドーム	2,675	会議室を有していない
県立武道館	第一道場	会議室を有していない
	第二道場	
姫路港旅客ターミナル	1,110	会議室を有していない
姫路市勤労市民会館	510	300人 1室、60人 2室、30人規模 4室、15人 1室
姫路市文化センター	500	32人 1室、20人 1室、14人 1室

☞ 会議室を併設している展示施設として、姫路市勤労市民会館や姫路市文化センターが挙げられるが、これらの施設は展示面積が 500 m²程度である。

ニーズ 3

イベント等で多用途に利用できる施設が望まれている

表 既存施設の使用実績

施設	使用実績
姫路市文化センター	記念式典、入学式、文化祭、表彰式、協議会等の総会、発表会、成人式、卒業式、講演会等
みなとドーム	展示商談会、新商品発表会、展示即売会、フェア、(チャリティー)バザー、企業の顧客感謝祭、プロレス興行等

☞ 既存施設も、多用途に使用されている。

ニーズ4 他都市との比較において、3,000~5,000 m²程度の施設が必要

施設名	都市区分 (都市圏)	都市圏人口 (万人)	供用 開始	展示場 (m ²)		稼働率 (%)	運営形態
		母都市人口 (万人)		メイン	サブ		
姫路みなとドーム	中核市 姫路市	74.8	H12 (2000)	2,675	—	90.0	民間 (市)
		53.6					
熊本産業展示場	政令市 熊本市	146.2	H10 (1998)	8,000	—	69.8	財団 (県)
		67.0					
愛媛国際貿易センター	中核市 松山市	64.3	H8 (1996)	4,500	1,500	41.4	民間 (県)
		51.6					
広島県立ふくやま産業交流館	中核市 福山市	71.5	H12 (2000)	4,476	498	—	民間 (県)
		46.1					
岡山県総合展示場	政令市 岡山市	150.3	H3 (1991)	3,797	2,571	66.5	民間 (県)
		69.6					
石川県産業展示館	中核市 金沢市	65.7	S47 (1972)	6,675	6,209	38.8	財団 (県)
		45.5					
岐阜産業会館	中核市 岐阜市	83.1	S45 (1970)	2,180	591	37.0	財団 (市)
		41.8					
アクトシティ浜松	政令市 浜松市	113.9	H6 (1994)	3,500	—	65.2	財団 (市)
		81.6					
静岡産業支援センター	政令市 静岡市	98.6	H24 (2012)	5,400	5,000	56.2	財団 (市)
		70.1					
新潟コンベンションセンター	政令市 新潟市	115.2	H15 (2003)	7,800	—	61.6	民間 (県)
		81.3					
栃木県立宇都宮産業展示館	中核市 宇都宮市	79.0	S63 (1988)	2,665	336	—	民間 (県)
		45.8					

※都市圏人口及び母都市人口は平成17年度のもの

④-A) 望ましい施設シート (コンベンション・展示施設 (会議施設))

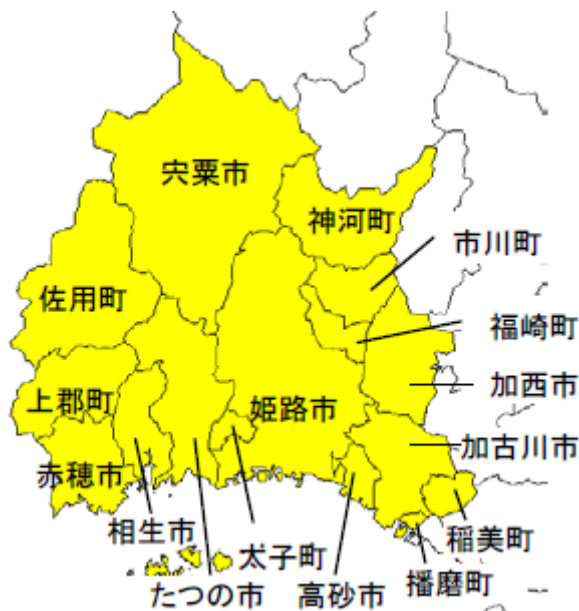
担当部局	産業局観光交流推進室		
懇話会での方向性	<ul style="list-style-type: none"> 本市における MICE の過去の実績、今後の需要予測、大規模国際会議・見本市の誘致の可能性などについて分析を行い、今後の戦略的展開について十分検討を行う コンベンションホールの機能、備えるべき施設、規模などについては、民間の経済活動や展示機能の必要性にも留意しつつ、審議を進める コンベンションホールと文化施設については、各々に必要な機能を十分検討した上で、役割分担、建設位置、建築様式などの審議を進める 		
懇話会での個別意見	<ul style="list-style-type: none"> 大規模需要をターゲットにするなど、民業圧迫への対応なども考慮すべき 誘致には地縁血縁が重要である ・ 城等の活用が一つのキーポイント 外部経済に左右され、姫路では 400~1,000 人規模が一つの目処ではないか 国際会議の需要は一定程度ある ・ 収容人数の大きい施設がないのがネック コンベンション施設は、MICE 等の政策的な観点から検討することが重要である。 MICE は、神戸市など県庁所在都市に比べて不利な点が多い。どのような MICE の誘致を目指すのか、戦略を立てた上で、機能や規模を考えなければならない。 姫路城、播磨科学公園都市、神戸のスーパーコンピューター等を考えると、産業や学術に特化したコンベンション、国際会議、見本市の需要は増えてくるのではないか。 		
政策 (上位計画での位置づけ等)	総合計画 (基本目標 1、基本的政策 4・5) <ul style="list-style-type: none"> 国際化に対応した交流社会の構築 国際観光・コンベンション都市の実現 		
現有施設	施設の概要	主な施設	姫路商工会議所、姫路市民会館、イーグレひめじ、ホテル日航姫路、姫路キャッスルグランヴィリオホテル
		機能	会議機能、宴会機能
		規模	301 人以上 : 3 室 101~300 人 : 10 室 51~100 人 : 14 室
		管理運営	姫路商工会議所: 民間 姫路市民会館 : 市 (直営) イーグレひめじ: 市 (直営) ホテル日航姫路: 民間 姫路キャッスルグランヴィリオホテル: 民間
		使用例	会議、宴会
		問題点	<ul style="list-style-type: none"> 100 人を超える規模の会議室はあまり存在せず、複数室有する施設はホテルを除けば姫路商工会議所のみである。 ホテルを除けば、JR 姫路駅から 700m 以上離れた場所に立地している。 一定数の施設はあるものの、コンベンションを推進するうえでは不十分 収容人数の大きい施設がないのが、コンベンションの誘致上のネック。
ニーズ	シーズ	シーズ 1) 播磨の連携中枢都市であり、新幹線 (特にのぞみ) の停車駅であるなど交通の利便性が高い。 シーズ 2) 製造品出荷額等が同規模の都市に比べ多く、製造業 (ものづくり) に強みがあることから関連コンベンションの需要がある。 シーズ 3) 播磨科学公園都市における先端産業や技術の集積、市内大学等の立地。 シーズ 4) 姫路城等、コンベンションの誘致材料になる魅力的な観光資源がある。 シーズ 5) 国際会議観光都市として、これまでのコンベンション誘致活動の実績が蓄積されている。 シーズ 6) 施設規模等を要因として開催機会を逃しているコンベンションがあり、潜在的な需要が見込める。	
	ニーズ	ニーズ 1) 一定規模の主会場と分科会を開催できる複数の会議室がある施設があれば、コンベンションを開催したいという要望が強い。 ニーズ 2) 市内施設には、ある程度の会議室数があるものの分散していることから、利用しにくい。 ニーズ 3) 姫路城を活用したコンベンション開催誘致に当たって、会場の制約が、誘致活動の阻害要因となっている。	

新規施設	施設の概要	設置目的	本市のものづくり力や交通利便性、他にない観光資源などの優位性から生まれるコンベンションの開催需要を受け止められる施設が求められている。一方、国全体で外客誘致施策として、国際会議だけではない幅広いMICEマーケティング戦略が進められている。MICE誘致は、地域へ人と知恵を呼びこみ、新たなビジネス機会を創出し、大きな経済効果を生み出すものと期待されていることから、他地域との広域的な連携のもと、都市の競争力、ブランド力の向上につなげていくため、その受入環境を整備していくことが望ましい。	
		機能	<p>会議機能</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンケット機能もしくはケータリングへの対応機能 ・学会等の分科会ではポスターディスカッションが行われるため、ポスター展示用のフック、パネル等の設備。 ・無線LAN環境の整備。 ・分煙スペースの確保。 ・アフターコンベンション充実のため、施設内にATMの設置。 <p>※同時通訳施設は、使用実績がないため整備しない。</p>	
		規模	<ul style="list-style-type: none"> ・1,000～2,000人規模の大ホール1室（文化センター大ホールを併用） ・800人規模の多目的ホールが1室 ・120人規模（分割可）の会議室が5室ほか <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外のコンベンションの開催が可能な施設の配置。 ・学会等の分科会用に、複数の会議室は必要。 <p>※JCCB（日本コンベンション・ कांग्रेस・ビューロー）2010年度調査によると、コンベンション規模800人までが全体の74%を占め、その中でも100～299人規模が最も多い（35%）。これらを主対象とし、分割により稼働率を上げる。</p>	
		類似施設	岡山コンベンションセンター	
		管理運営	民間活力を活用（指定管理者制度の導入を検討）	
		目指すべき利用	<ul style="list-style-type: none"> ・国際コンベンションの開催 ・日本国内の学会や総会等、製造業等の企業と連携した大規模コンベンションの開催 ・姫路城をはじめとする他にはない地域資源と連動したコンベンションの開催 ・国際団体、学会等が主催する総会、学術会議 	
		期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・国際コンベンション都市としての機能向上 ・交流人口の増と経済波及効果 ・国内外へ向けての都市PR ・情報交流が活発になることによる都市力の向上 	
重視する視点からの評価	視点	評価	評価の観点	課題
※重視する視点は、「イベントゾーン整備の基本方針」より	整備コンセプト	◎	・幅広い会議や集会による交流	
	都市戦略(MICE)	◎	・大規模なコンベンションに対応できる施設	・既存施設との連携
	中心市街地活性化	◎	・集客による活性化	・周辺施設との連携
	コンパクトシティ	○	・都心部での立地	
	ファシリティマネジメント	○	・効率的な管理、運営	・既存施設との役割分担

④-B) シーズ・ニーズに関する参考資料 (コンベンション・展示施設 (会議施設))

シーズン1 播磨の連携中枢都市であり、新幹線 (特にのぞみ) の停車駅であるなど交通の利便性が高い

i 連携中枢都市 (モデル事業参加市町)



☞ 圏域人口は、約 133 万人である。

ii 新幹線利用による主要都市までの所要時間

	福岡	広島	岡山	大阪	名古屋	東京
新幹線駅	博多	広島	岡山	新大阪	名古屋	東京
所要時間	2:05	0:57	0:29	0:29	1:23	3:08
姫路駅へ午前 10 時に到着するための出発時刻	7:29	8:37	9:29	9:29	8:35	6:50

☞ イベントゾーンは姫路駅から近く、徒歩で 10 分程度の距離にある。また、広島から名古屋までの地域では、朝 8 時までには新幹線に乗車すれば、10 時までには姫路に到着できる。

シリーズ2

製造品出荷額等が同規模の都市に比べて多く、製造業（ものづくり）に強みがあることから関連コンベンションの需要がある

表 主要都市における製造品出荷額等の比較（平成24年度）

	人口（人）	製造品出荷額等〔単位：100万円〕	
			人口一人当たり
姫路市	533,832	2,028,135	3.80
鹿児島市	605,120	336,159	0.56
熊本市	725,005	372,418	0.51
福岡市	1,422,831	576,523	0.41
北九州市	974,691	2,003,119	2.06
広島市	1,164,654	2,198,738	1.89
福山市	465,654	1,737,797	3.73
倉敷市	476,444	4,143,963	8.70
岡山市	691,955	925,987	1.34
神戸市	1,512,109	2,866,785	1.90
大阪市	2,543,137	3,522,064	1.38
京都市	1,382,113	2,253,504	1.63
岐阜市	409,655	255,200	0.62
名古屋市	2,182,154	3,389,586	1.55
浜松市	791,710	2,085,286	2.63
静岡市	713,640	1,711,073	2.40
平均			1.83

※首都圏を除く東京～鹿児島間の、人口30万人以上で、独自の都市圏を形成しているといわれる都市を対象に抽出

※製造品出荷額等は平成24年工業統計調査結果による

⇒本市の製造品出荷額等における人口一人当たりの換算額は380万円となっており、上記他都市の平均値である183万円を大きく上回っている。

シリーズ3

播磨科学公園都市における先端産業や技術の集積、市内大学等の立地

i 播磨科学公園都市の立地企業及び関連施設

立地企業	○住友電気工業(株) ○日本電機(株) ○(株)ダイセル ○凸版印刷(株) ○(株)イワサワ ○(株)Hlビジネスサポート ○(株)帝国電機製作所 ○ビーエイチエヌ(株) ○フジプレミアム(株) ○栗田工業(株) ○三木弘鋼材(株) ○ハマックス(株) ○(株)三日月運送 ○上月電装(株) ○日本エア・リキード(株) ○(株)平福電機製作所 ○オルガニックスピントロニクスジャパン(株) (清水電設工業(株)) ○(株)一宮電機 ○林一(株) ○川崎重工業(株)
関連施設	○SPring-8 ○SACLA ○ニュースバル ○兵庫県立大学理学部 ○先端科学技術支援センター

※平成26年3月現在 兵庫県企業庁のホームページより

⇒播磨科学公園都市では先端科学技術に関する研究施設やそれに関連した先端産業が集積している。

ii 市内の高等教育機関

高等教育機関	学部・学科等	場所
兵庫県立大学	姫路工学キャンパス [工学部・工学研究科]	姫路市書写 2167
	姫路環境人間キャンパス [環境人間学部・環境人間学研究科]	姫路市新在家本町一丁目 1-12
姫路獨協大学	外国語学部 法学部 経済情報学部 医療保健学部（理学療法学科、作業療法学科、 言語聴覚療法学科、こども保健学科、臨 床工学科） 薬学部	姫路市上大野七丁目-2-1
近大姫路大学	看護学部・看護学科 教育学部・こども未来学科	姫路市大塩町 2042-2



シーズ 4 姫路城等、コンベンションの誘致材料になる魅力的な観光資源がある

表 姫路市の観光資源

受入体制	本市の状況
観光資源	・「世界文化遺産 姫路城」や映画「ラストサムライ」の舞台となった書写山「円教寺」

日本政府観光局（JNTO）ホームページより

※書写山圓教寺：天台宗の別格本山。西国三十三所第 27 番。「西の比叡山」とよばれるほど寺格は高く、西国三十三所中最大規模の寺院で、中世には比叡山、大山とともに天台宗の三大道場と並び称された巨刹である。近年では、2003 年公開のハリウッド映画『ラストサムライ』、NHK 大河ドラマ『武蔵』（2003 年）や『軍師官兵衛』（2014 年）のロケ地にもなった。

☞ 「世界文化遺産 姫路城」等の観光資源があるため、観光とセットになったコンベンションの開催が可能である。

シリーズ6 施設規模等を要因として開催機会を逃しているコンベンションがあり、潜在的な需要が見込める

シリーズ3 姫路城を活用したコンベンション開催誘致に当たって、会場の制約が、誘致活動の阻害要因となっている

i 開催機会を逃しているコンベンション

催し物の内容	備考
文化財の保存修復に関する学会	700人規模。一会場を希望され断念。
医療系の学会	500人規模。一会場を希望され断念。市内大学から打診。
化学系の学会	1,000人規模。市内大学から打診。
※上記は、具体的な相談があり、下見などを実施した結果、規模等で開催できなかったケース。学会などについては、会場面から当初より誘致を断念している場合も多い。 ※現在のコンベンション誘致ターゲットは、500人以下である。	

☞会場規模の面から開催機会を逃しているコンベンションが多い。学会のような大規模コンベンションの開催では、収容人数の大きな会議室、及び分科会を一会場で開催できる一定数の会議室が集約的に存在していることが必要である。

ii 類似都市における会議施設（一箇所にまとまっている施設）

都市名	施設名	会議施設概要
姫路市	姫路商工会議所	500人規模 1室、100人規模 5室
	イーグレひめじ	300人規模 1室
	姫路市市民会館	800人規模 1室、150人規模 1室
新潟市	新潟コンベンションセンター	1,000人規模 1室、550人規模 1室、250人規模 3室
岐阜市	長良川国際会議場	1,700人規模 1室（文化ホールと兼用）、300人規模 1室
静岡市	静岡県コンベンションアーツセンター	1,200人規模 1室（文化ホールと兼用）
		500人規模 1室、300人規模 1室
浜松市	アクトシティ浜松	2,300人規模 1室（文化ホールと兼用） 550人規模 1室、450人規模 1室、350人規模 2室、
米子市	米子コンベンションセンター	2,000人規模 1室（文化ホールと兼用） 400人規模 1室、100人規模 1室
岡山市	岡山コンベンションセンター	700人規模 1室、300人規模 1室
		600人規模 1室（展示会場と兼用）
下関市	山口県国際総合センター	1,300人規模 1室、300人規模が2室、100人規模 1室
松山市	愛媛国際貿易センター	200人規模が1室、100人規模が2室
福岡市	福岡国際会議場	1,000人規模 1室（文化ホールと兼用）
		900人規模 1室（多目的ホール）、250人規模が1室

※類似都市としては、人口規模30～100万人程度としている。

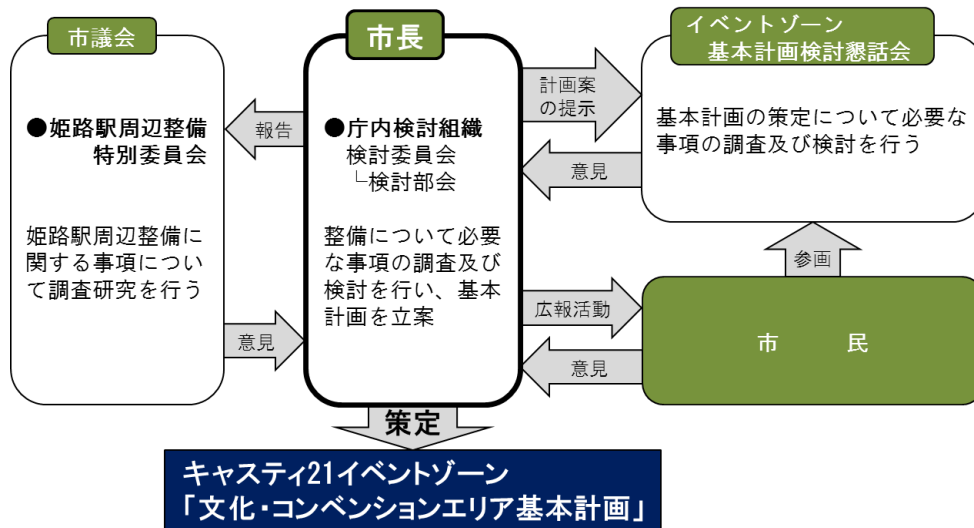
※会議施設は100人規模以上を表示している。

☞他都市と比較して、一箇所にまとまった会議室を持つ施設がない。

☞大規模コンベンションの主会場となる施設は、文化ホールと兼用している都市が多い。

(2) 策定関連資料

① 策定体制図



② イベントゾーンの検討経緯

年月	イベントゾーンの検討経緯	関連事業
昭和 62 年 2 月 昭和 63 年 3 月 平成元年 3 月 平成元年 5 月 平成 7 年 2 月 平成 16 年 10 月 平成 17 年 11 月 平成 18 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定（都市高速鉄道、区画整理、都市計画道路） ・姫路駅周辺総合整備計画（キャストィ 21）策定（大臣認可） 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 山陽本線等高架事業認可 ・姫路駅周辺土地区画整理事業認可 ・JR 山陽本線等高架工事着工
	<p>「都心部まちづくり構想」、「キャストィ 21 整備プログラム」策定 <整備コンセプト> 姫路駅を中心とするゾーン＝「出会いと交流」 ○キャストィ 21＝「広域圏の中核都市にふさわしいうらおいとにぎわいにあふれた交流都心の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランスゾーン＝「播磨の中核都市にふさわしい都市の顔」 ・コアゾーン＝「新たな高次機能が集積する商業・業務拠点」 ・イベントゾーン＝「交流と創造のうらおい広場」 <p>※キャストィ 21 整備プログラムにおいては、播磨の中核都市・新姫路市の果たすべき役割を踏まえ、高次都市機能の拡充と玄関口の整備が最も重要な課題との認識のもとに、都市部全体への波及効果も期待できるエントランスゾーンとコアゾーンの整備を優先し、その後イベントゾーンの整備に着手することとしている。</p>	
平成 19 年 1 月 平成 20 年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定（キャストィ 21 地区計画） 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 播但線・姫新線高架切替 ・都市計画決定変更（姫路駅北駅前広場、交通広場）
平成 23 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備イメージ（たたき案）公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 山陽本線高架事業完了 ・エントランスゾーン地下街封鎖・駅ビル撤去事業着手 ・コアゾーン等整備検討懇話会設置

年月	イベントゾーンの検討経緯	関連事業
平成 23 年 4 月		・「コアゾーン等まちづくり指針」策定
平成 23 年 7 月～8 月	・庁内検討委員会、イベントゾーン基本計画検討懇話会設置	
平成 23 年 11 月	第 1 回イベントゾーン 基本計画検討懇話会 ・姫路駅周辺整備及びイベントゾーンについて	
平成 23 年 12 月		・キャッスルガーデン建設工事、JR 新駅ビル建設工事着手
平成 24 年 6 月	第 2 回イベントゾーン 基本計画検討懇話会 ・イベントゾーン整備の方向性について	
平成 24 年 10 月 平成 25 年 1 月	「イベントゾーン基本計画 検討懇話会中間とりまとめ」 策定	・コアゾーン事業コンペ開始
平成 25 年 2 月 平成 25 年 3 月	↑ 「中間とりまとめ」に基づく庁内検討、経営会議、調整会議、関係局長会議等開催 ↓	↑ ・コアゾーン優先交渉権者決定 新地下街、JR 新駅ビル、キャッスルガーデン、キャッスルビュー、連絡デッキオープン ↓
平成 25 年 7 月		
平成 26 年 6 月 平成 26 年 7 月	第 3 回イベントゾーン 基本計画検討懇話会 ・イベントゾーンの段階的整備について ・イベントゾーン整備の基本方針（素案）について	・コアゾーン B ブロック着工
平成 26 年 9 月	「イベントゾーン整備の基 本方針」策定	
平成 26 年 10 月	第 4 回イベントゾーン 基本計画検討懇話会 ・文化・コンベンションエ リア基本計画（案）について	
平成 27 年 1 月 平成 27 年 2 月	・パブリック・コメント実施 第 5 回イベントゾーン 基本計画検討懇話会 ・パブリック・コメントの結果について ・文化・コンベンションエ リア基本計画（案）について	
平成 27 年 3 月	キャストィ 21 イベントゾーン 「文化・コンベンションエ リア基本計画」策定	・エントランスゾーン姫路駅北駅前 広場整備工事完了

キャストィ 21 イベントゾーン
文化・コンベンションエリア基本計画
平成 27 年(2015 年)3 月

<発行>

姫路市 都市拠点整備本部 姫路駅周辺整備室
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目 1 番地
TEL (079)221-2574 FAX (079)221-2557